HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ソ連・東欧研究文献目録 1976
Author(s)	松田, 潤//編
Citation	スラヴ研究, 22, 271-301
Issue Date	1978-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/5076
Type	bulletin (article)
File Information	KJ00000113219.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

ソ連・東欧研究文献目録　1976*

松　田　　潤　編

はじめに

わが国におけるスラヴ地域の研究の発展は，近年めざましいものがある。それにともない文献量も増加の一途をたどっている。しかし，その情報伝達についてみるならば，『ロシア史研究』，『ロシア手帖』，『スラヴ学論集』（休刊）などで，部分的になされているにすぎない。

わが国における唯一の専門機関である本スラブ研究施設では，以前より AAASS (American Association for the Advancement of Slavic Studies) で刊行されている *American Bibliography of Slavic and East European Studies* あるいは，NASEES (National Association for Soviet and East European Studies) による *Soviet, East European & Slavonic Studies in Britain* に相当するこの分野の文献目録の刊行の必要性と，それを求める声の高いことを感じていた。

この度，ようやくその試みとして，1976年度の文献目録の作成に踏み切るにいたった。

北海道という，日本の出版文化の僻地においてこの種の作業を行うことの不利は，計画を実施していくにつれて，想像以上に大きなものであるとわかった。実際，かなりの部分，現物を確認することなしに目録化している。この種の目録を，現物の確認なしに，刊行することの不備を認めたうえで，あえて行うのは，これをもとに，より精度の高い利用価値のあるものをめざすということと，こうした作業に対する学界各位のご理解と協力を期待することにほかならない。

収録上のことのみならず，編集上，その他多くの不備をまぬがれることは出来なかった。この点について，学界各位の叱正をお願いし，徐々に改善を重ね，完全なものとしたいと考えている。

この文献目録の継続刊行を行うべく努力を重ねる所存ではあるが，なお一層のご援助をお願いするものである。

（なお，各位におかれては，発表された論文，著作等を，当施設にご恵贈下さることをお願いする。）

凡　　例

1. この文献目録は，1976年にわが国で刊行されたソ連・東欧研究とこれに関係すると思われる分野の雑誌論文と記事，および単行書を収録している。
2. 各文献の分類は，つぎに掲げた分類表によった。
3. 各文献の排列は，分類項目のなかで著者名のアルファベット順（ヘボン式）により，著者名のないものは論題名のアルファベット順に著者名排列のなかに組入れた。

---

* 目録編成にあたっては，『経済学文献季報』の要領を参考させていただいた。道立図書館，札幌市立図書館，札幌大学図書館，北大附属図書館では，種々の便宜をはらっていただいた。又，目録編成作業の段階で長谷部宗吉，佐々木優氏の協力があった。記して謝意にかえる。

4. 単行書は，各分類項目のはじめ，すなわち雑誌論文の前に排列し，記載は著者名，書名，発行地，発行所，発行年，ページ数の順に並べた。
翻訳書のばあいは，書名のつぎに訳者名を掲げた。
単行書のうち，講座，論文集など著者が２人以上のばあいは，単行書として掲げるほか，必要に応じて著者，論題ごとに分出し，最後にその収録されている書名を→〔アイテム番号〕をもってしめした。
5. 論文は，筆者名，論題名，誌名，巻号，所収ページ，発行年月日の順で記載した。巻号数については，第５巻第１号は5(1)，第３・４号合併のばあいは(3/4)とした。また雑誌の発行年月日が1977年10月のばあいは（10，1977）とした。
6. 書評は，各項目のあとにアイテム番号に R をつけて区別した。
7. 外国人著者については，カナ書きのあとにカッコに入れて原著名を併記した。
翻訳論文および翻訳書で原著名がロシア文字は下記のとおり翻字した。
А-A Б-B В-V Г-G Д-D Е-E Ё-E Ж-ZH З-Z И-I Й-I К-K Л-L М-M Н-N О-O П-P Р-R С-S Т-T У-U Ф-F Х-KH Ц-TS Ч-CH Ш-SH Щ-SHCH Ъ-" Ы-Y Ь-' Э-E Ю-IU Я-IA
8. 論題名にでてくる基数および序数，たとえば，五カ年計画，その一，昭和五十二年度などの数字は，すべてアラビア数字に統一した。
9. 座談会の記事については，その題名と参加者のみを記した。
10. 以下の項に該当する文献はのぞいてある。
a) マルクス主義と共産主義に関する論文で，ソ連・東欧研究と明瞭に判断できないもの。
b) 週刊誌，新聞等の論文，記事。

Editolial notes

1. This biblography includes articles and books about Slavic and East European studies published in Japan in 1976.
2. The classification of all items has been done in accordance with the Classification Scheme in p. 273.
3. The order of listing within each classification is alphabetical (Hepburn romanization) by the author's name. But when the author's name is not given, the item is ordered by title alphabetically.
4. Under each classification are listed the books first, and then in the order of: author, title, place of publication, publisher, year of publication, and number of pages. In the case of translation, the names of translators follow the title.
Where books have two or more authors, as in the case of lectures and collections of articles, besides listing them as books, we have also made analytical entries under author and title when considered necessary, and at the end of these entries, a cross reference is made to the item number of the book already listed, as follows: →[item number].
5. We have listed articles in the following order: author, title, name of journal, volume number, page number, and year and month of publication. As for volume number, Vol. 5, No. 1 is designated as 5 (1). In the case of combined volume numbers, as Nos. 3 and 4, as following: (3/4). For the dates of publication of journals, as Oct. 1977 will be shown as: (10, 1977).
6. Review articles are listed at the end of each subheading and distingushed by the letter R.
7. With foreign authors whose works appear in Japanese, their actual names will be given in parentheses after the *kana* reading. Those translated items whose original authors

are Russians, when listed under the authors' names, have been transliterated as follows: А-A Б-B В-V Г-G Д-D Е-E Ё-E Ж-ZH З-Z И-I Й-I К-K Л-L М-M Н-N О-O П-P Р-R С-S Т-T У-U Ф-F Х-KH Ц-TS Ч-CH Ш-SH Щ-SHCH Ъ-" Ы-Y Ь-' Э-E Ю-IU Я-IA

8. Both cardinal and ordinal numbers in the Japanese appearing in titles, for example, such number as: The five-year plan; Number 1; Fiscal year *Showa* 52 have all been standardized as Arabic figures.
9. In the case of minutes of meetings or discussions, we have only entered the subjects and the names of persons participating.
10. The following categories of works have been excluded.
    a) Works on Marxism and communism having no substantial connection with Slavic and East European studies.
    b) Items published in weekly magazines or newspapers.

分　類　表	Classification Scheme
1. 人文科学	1. Humanities
1.1 哲学，宗教，思想〔史〕	1.1 Philosophy, Religion, Thoughts
1.2 歴史，地理，伝記	1.2 History, Geography, Biography
1.3 文学	1.3 Literature
1.4 言語	1.4 Linguistics
1.5 心理学，教育	1.5 Psychology, Education
1.6 芸術	1.6 Arts
2. 社会科学	2. Social Sciences
2.1 政治，軍事	2.1 Politics, Military Affairs
2.2 国際関係	2.2 International Relations
2.3 法律	2.3 Law
2.4 経済，統計	2.4 Economy, Statistics
2.5 経営，労働	2.5 Management, Labour
2.6 産業	2.6 Industry
2.7 金融，財政	2.7 Banking, Public Finance
2.8 社会，社会学	2.8 Social Condition, Sociology
3. その他	3. Miscellaneous

1. 人　文　科　学

1. 哲学，宗教，思想〔史〕

1　ゲラン (Guérin, Daniel): 革命的自然発生—ゲランのローザ論，村上公敏訳．名古屋　風媒社　1976. 264.

2　モラン (Morin, Edgar): 自己批評—スターリニズムと知識人，宇波　彰訳，(りぶらりあ選書)．東京　法政大学出版局　1976. 311.

3　オイゼルマン (Оизерман, Т. И.): マルクスの『経済学・哲学手稿』，服部文男；大谷孝雄訳．東京　青木書店　1976. 196.

4　ロシア・ナロードニキ運動資料集　1-2，田坂　昂編訳．東京　新泉社　1976. 2冊.

5　シャフ (Schaff, Adam): マルクス主義と個人，花崎皋平訳．東京　岩波書店　1976. 482.

6　内村剛介：科学の果ての宗教（講談学術文庫）．東京　講談社　1976. 120.

7 渡辺 寛：レーニンとスターリン—社会科学における（UP 選書）．東京 東京大学出版会 1976. 221.

8 荒又重雄：ナロードニキ主義とマルクス主義—A. ヴァリツキ氏の著書の日本訳公刊によせて．窓（16），35-41（4, 1976）.

9 デカブリストの思想と行動—プシカリョーフとフィルソフの論著の紹介（2完），西海太郎訳．中央大学文学部紀要（80），83-116（3, 1976）.

10 藤井一行：民主主義的中央集権制と思想の自由—レーニン時代の党組織原理の歴史的考察．現代と思想（26），18-64（12, 1976）.

11 藤井一行：レーニンのスターリン批判をめぐって—「スタリーン主義」研究のための予備的ノート．現代と思想（23），247-265（3, 1976）.

12 平井俊彦：ルカーチと西欧マルクス主義．現代思想 4（13），115-127（12, 1976）.

13 石川郁男：チェルヌィシェフスキーと第一次「土地と自由」—スレプツォーフの「回想」を中心として．一橋論叢 76（3），223-234（9, 1976）.

14 岩淵慶一：「プラクシス」は何をめざしたか—マルクス主義哲学のユーゴスラヴィア学派について〔含資料〕，現代の理論 13（8），57-70（8, 1976）.

15 岩淵慶一：疎外と自主管理—「プラクシス」グループにおけるマルクス疎外論の受容と発展．現代の理論 13（7），97-119（7, 1976）.

16 岩淵慶一：スターリン主義哲学の復活—ソ連および東ドイツの最近の哲学教科書についての覚書．現代の理論 13（5），97-110（5, 1976）.

17 金子幸彦：マリコフとその神人思想—「人民のなかへ」の運動と宗教，（ろしや文学閑話抄 4）．窓（16），23-28（4, 1976）.

18 勝田吉太郎：共産主義と宗教—神なきヒューマニズムの悲劇．諸君 8（8），22-46（8, 1976）.

19 勝田吉太郎：ソ連政権下の宗教弾圧．諸君 8（12），22-43（12, 1976）.

20 川崎隆司：ラマルク・ベーア・ダーウィンの親縁性—チェルヌィシェフスキーの自然淘汰説批判に寄せて．一橋論叢 76（4），1-24（10, 1976）.

21 高野雅之：ロシヤ・メシアニズムとチュッチェフ．ヨーロッパ文学研究（24），113-130（12, 1976）.

22 コシーク（Kosik, K.）；サルトル，（Sartre, J-P.）：コシーク，サルトル往復書簡，さとみみのる訳．現代の理論 13（8），84-89（8, 1976）.

23 神代光朗：二つのローザ・ルクセンブルグ論（1-2）．三田学会雑誌 68（11/12），60-66；69（1），44-45（12, 1975；1, 1976）.

24 栗栖 継：チェコ知識人と中国．現代思想 4（9），186-190（9, 1976）.

25 ルカーチ（Lukács, G.）：「歴史と階級意識」序（1967）（2-3完），池田貞夫；岡田雄一訳．未来（112），42-49；（113），40-51（1-2, 1976）.

26 松原広志：ロシア思想史の2, 3の問題点．ロシア史研究（25），43-49（6, 1976）.

27 ピコンヌ，ポール：コシークと今日のマルクス主義—カレル・コシークの復権へむけて，粉川哲夫訳．現代の理論 13（8），71-83（8, 1976）.

28 左近 毅：バクーニンとマルクス—ネチャーエフとの関係をめぐって．ロシヤ語ロシヤ文学研究（8），64-75（12, 1976）.

29 左近 毅：第1インターナショナルのロシア支部（1)—そのミハイル・バクーニンとの関係．人文研究（大阪市大） 28（10），1-27（12, 1976），

30 雀部幸隆：ロシア革命をめぐるマルクスとレーニンとの思想的交錯（1-3）．現代と思想（23），228-246；（24），243-274；（26），255-269（3-12, 1976）.

31 佐々木照央：外川継男氏のチャアダーエフ研究に関する若干の問題．ロシア史研究（25），33-42；53；72（6, 1976）.

32 スカースキン（Сказкин, С. Д.）：ソ連における国家と宗教，井尻良夫訳．キリスト教論集（桃

山学院）(13), 109-121 (3, 1977).

33 外川継男：ペトラシェフスキー派の人々．えうゐ (3), 2-11 (6, 1976).

34 外川継男：1848年の革命とチャアダーエフの逆説—バーリンのチャアダーエフ像への反論として．スラヴ研究 (21), 55-81 (10, 1976).

35 外川継男：「哲学書簡」から「狂人の弁明」へ→〔162〕 ロシア・西欧・日本.

36 富沢賢治：レーニン「マルクス主義の三つの源泉と三つの構成部分」．経済 (145), 137-148 (5, 1976).

37 友近龍男：トロツキー対ライヒ．現代の眼 17 (6), 288-297 (6, 1976).

38 土谷直人：ゲルツェンと西欧→〔162〕 ロシア・西欧・日本.

39 内村剛介：二十世紀囚人のプロとして．現代思想 4 (9), 166-169 (9, 1976).

40 われらのバクーニン—バクーニン死後100年記念特集：バクーニン小伝（ネットラウ，M.）；バクーニンの臨終（ライヒェル，A.）；バクーニンの伝言（編訳 はしもとよしはる）；第1インターナショナルとバクーニン；バクーニン文書の集成者（梅田順子）；バクーニン紹介の起源（若山健二）；日本に於けるバクーニン研究の書誌（山本二夫）；バクーニンと函館・横浜・神奈川（若山健二）；望月百合子さんに「バクーニン全集」のことを聞く（山本二夫）；バクーニン頌（坂入純二）；バクーニンとルクリュ（三浦精一）；バクーニン寸評（高石新）；純粋理論のかなたに（佐倉直巳）．リベルテール（特別号），214 (9, 1976).

41 渡辺雅司：偏見批判の体系としてのチェルヌィシェフスキーの共同体論—後進国型社会主義化への一つの試み．経済と経営（札幌大） 7 (1), 83-146 (7, 1976).

42 渡辺雅司：ピーサレフとバザーロフ (1)—ニヒリスト・ピーサレフの誕生からバザーロフとの出逢いまで．文化と言語（札幌大） 9 (2), 97-116 (3, 1976).

R-43 藤田 勇：ロイ・メドヴェーデフ著，石堂清倫訳「社会主義的民主主義」．歴史学研究 (434), 44-48 (7, 1976).

1.2 歴史，伝記，地理

44 荒畑寒村：荒畑寒村著作集 6；ロシア革命．東京 平凡社 1976. 499.

45 船越昭生：北方図の歴史．東京 講談社 1976. 331.

46 ジョルジュ (George, Pierre)：ソビエト連邦の地理・改訂新版，野田早苗訳（文庫クセジュ）．東京 白水社 1976. 148. 参考文献（巻末）.

47 細谷千博：シベリア出兵の史的研究（叢書名著の復興 17）．東京 新泉社 1976. 281, 34.

48 加藤九祚：天の蛇—ニコライ・ネフスキーの生涯．東京 河出書房新社 1976. 365. ニコライ・ネフスキー略年譜・主要文献.

49 菊地昌典編：ソビエト史研究入門．東京 東京大学出版会 1976. 388.

50 クループスカヤ (Крупская, Н. К.)：リエーニンの思い出 1，河村盛一訳．川西市 河村盛一 1976. 269, 46.

51 国本哲男：ロシア国家の起源．京都 ミネルヴァ書房 1976. 390.

52 黒羽 茂：日露戦争と明石工作．東京 南窓社 1976. 194.

53 ルクセンブルグ (Luxemburg, Rosa)：ヨギヘスへの手紙 1-2，伊藤成彦；米川和夫；阪東 宏訳．東京 河出書房新社 1976. 2冊，関連年表（各巻・巻末）.

54 大江志乃夫：日露戦争の軍事史的研究．東京 岩波書店 1976. 653, 29.

55 小野塚吉平：ノモハン中隊長の手記．東京 新人物往来社 1976. 246.

56 小沢親光：続ノモンハン戦記．東京 新人物往来社 1976. 245.

57 ポクロフスキー (Покровский, М. Н.)：ロシア史 2-3，岡田宗司監訳；高田爾郎訳．東京 勁草書房 1976. 2冊.

58 ポクシシェフスキー (Покшишевский, В. В.)：世界の住民—経済地理学的概観，鴨沢 巌訳．東京 大明堂 1976. 230.

59　参謀本部：西伯利地誌　1-2．東京　国書刊行会　1976．2冊，(明治25年刊の複製)．
60　進藤純孝：七色の風船—ロシア三人旅．東京　集英社　1976．253．
61　白井久也：新しいシベリア—希望の大地からの報告，梅津禎三撮影．東京　サイマル出版会　1976．296．
62　ソビエト連邦科学アカデミー・歴史研究所：ボリシェヴィキの軍隊工作，ソ連軍事研究会訳．東京　恒文社　1976．395，参考文献　379-395．
63　高橋　治：派兵 (3)—雪と吹雪と．東京　朝日新聞社　1976．408．
64　バーリン (Berlin, I.)：ロシアと1848年 (2完)，今井義夫訳．知の考古学 (7)，121-136 (3, 1976)．
65　チェレペニン (Челепенин, Н.)：プロレタリアヒロイズムの不滅の実例—全ロシア10月政治ストライキの70年によせて．共産圏問題　20 (3)，79-83 (3, 1976)．
66　土肥恒之：17世紀ロシアの所領構造・覚書．一橋論叢　75 (2)，70-77 (2, 1976)．
67　藤本和貴夫：ソビエト権力と内戦．→〔49〕ソビエト史研究入門．
68　ゴンチャロフ (Гончаров, И. А.)：1854年・韓国—「戦艦パラルダ号」から，朴泰根訳．アジア公論　5 (12)，136-156 (12, 1976)．
69　グトノワ，E. B.：中世農民層と異端，林　基訳．専修人文論集　(17)，153-165 (6, 1976)．
70　原　暉之：近代ロシア．→〔49〕ソビエト史研究入門．
71　原　暉之：ロシアの社会運動とユダヤ人問題—1881年前後．えうゐ (3)，124-135 (6, 1976)．
72　比嘉清松：ポーランドと西方との海上貿易，1565-1646—ポーランドの貿易収支を中心にして．松山商大論集　27 (3)，119-152 (8, 1976)．
73　星　新一：バクーにて．窓 (16)，2-5 (4, 1976)．
74　一柳俊夫：ユ・ゲ・ヴィノグラドフ「ベレザニ島出土のギリシア最古の手紙」(「古代史通報」1971年第4号所収) について．法制史研究 (25)，189-216 (3, 1976)．
75　伊木　誠：第一次世界大戦とロシア革命—資本主義200年の歩み (6)．経済セミナー (260)，107-113 (9, 1976)．
76　猪木正道；中嶋嶺雄 (対談)：ロシア革命と中国革命．文芸春秋　54 (12)，94-104 (12, 1976)．
77　犬丸義一：コミンテルン第7回大会と日本．労働運動史研究 (59)，35-74 (6, 1976)．
78　石戸谷重郎：17世紀ロシア逃亡農民の社会経済史，奈良教育大学紀要．人文・社会科学　25 (1)，39-60 (12, 1976)．
79　石川捷治：コミンテルン第5回大会の再検討—統一戦線論の発展について．法政論集　3 (4)，65-86 (3, 1976)．
80　岩村登志夫：コミンテルンと日本共産党の成立—ヴォイチンスキー論文の位置と意義．日本史研究 (165)，1-29 (5, 1976)．
81　加藤一郎：独ソ戦期におけるソヴェート・ロシアの敗戦主義運動．国家論研究 (11)，80-90 (12, 1976)．
82　加藤一郎：祖国防衛主義の論理—第1次大戦とメンシェヴィキ＝祖国防衛派．現代の理論　13 (7)，185-195 (7, 1976)．
83　加藤九祚：中川五郎治の見たシベリア諸民族．国立民族学博物館研究報告　1 (1)，152-158 (3, 1976)．
84　加藤晋平：靺鞨文化とオホーツク文化．窓 (17)，6-7 (6, 1976)．
85　カーツ (Кац, А. Л.)：ソヴェトの歴史叙述におけるローマ帝国の滅亡の問題 (1-2完)，一柳俊夫訳．歴史評論 (315)，67-80, 98；(316)，80-91 (7-8, 1976)．
86　菊地昌典：日本のロシア・ソ連観．→〔49〕ソビエト史研究入門．
87　菊地昌典：ロシア革命とシベリア出兵—日本人の革命体験の分析．→〔162〕ロシア・西欧・日本．
88　菊地昌典：スターリン独裁体制．→〔49〕ソビエト史研究入門．

89 木崎良平：原初年代記考 4の4—邦訳（4完）．鹿児島大学史学科報告（25），47-109（8, 1976）．
90 吉良秀通：ユーゴスラヴィアより帰りて（講演要旨）．経済人 30（7），470-476（7, 1976）．
91 吉良秀通；韮沢嘉雄：ユニークな社会主義国ユーゴ（対談）．世界経済評論 20（7），37-42（7, 1976）．
92 近藤嘉昭：コミンテルン創立をめぐるヴェ・イ・レーニンの戦術論—非妥協と「妥協」について．長崎県立国際経済大学論集 9（3/4），85-113（3, 1976）．
93 越崎宗一：ネフスキー先生のこと．えうゐ（3），70-72（6, 1976）．
94 倉持俊一：ロシアにおける資本主義の発達と国家の役割—第2回日ソ歴史学シンポジウムに参加して．ロシア史研究（25），73-76（6, 1976）．
95 増田富壽：ロシア農奴解放令における「小領主」および「僕婢」規程について—誤訳と誤解の顕著の一例．史観（94），5-14（2, 1976）．
96 松本正雄：回想・除村吉太郎—その人の生きた時代．窓（16），18-22（4, 1976）．
97 マフロディン（Мавродин, В. В.）：1773-75年のロシア農民戦争—200年記念，林 基訳．専修史学（8），68-89（4, 1976）．
98 南塚信吾：ネップ期の諸問題．→〔49〕ソビエト史研究入門．
99 百瀬 宏：第2次大戦期．→〔49〕ソビエト史研究入門．
100 長尾 久：10月革命．→〔49〕ソビエト史研究入門．
101 中野美代子：ソ連旅行管窺．えうゐ（3），142-146（6, 1976）．
102 西海太郎：デカブリストの思想と行動—プシカリョーフとフィルソフの論著の紹介（2）．〔中央大学文学部〕紀要・史学科（21），83-116（3, 1976）．
103 斎藤治子：ウクライナ史における民族と革命—中井氏の批判にこたえて．ロシア史研究（25），62-72（6, 1976）．
104 阪本秀昭：郷ソヴェトの活動．天理大学学報（105），129-148（9, 1976）．
105 阪本秀昭：ロシア農村における郷ソヴェトの建設．天理大学学報（102），25-44（6, 1976）．
106 坂本 博：カザン広場100周年に寄せて．ロシア手帖（9），20-23（7, 1976）．
107 坂本夏男：近衛特使モスクワ派遣問題についての一考察．久留米工業高等専門学校研究報告（26），48-39（8, 1976）．
108 桜井清彦：アリューシャン列島調査記．史観（95），5-13（3, 1976）．
109 佐瀬昌盛：考察・チェコスロヴァキア戦後史—チェコの悲劇；その歴史と教訓（6-17）．革新（67），86-97；（68），94-105；（69），98-107；（70），88-97；（71），146-154；（72），87-95；（73），88-95；（74），178-186；（75），96-104；（76），86-94；（77），92-100（2-12, 1976）．
110 関水 斉：南北戦争・市民革命説と「アメリカ型の道」—レーニン「土地国有化論」からみた再検討（研究ノート）．歴史学研究（430），30-41（3, 1976）．
111 塩川伸明：工業化論争．→〔49〕ソビエト史研究入門．
112 ソヴェト地理学における環境論抄（1-2）．知の考古学（6），91-94；（10），80-84（1；9, 1976）．
113 Stephan, John J.: Russian soldiers in Japanese service—The Asano brigade. 史観（95），55-66（3, 1976）．
114 鈴木健夫：ロシヤ農奴解放審議過程における領主の「不完全所有権」問題—ロシヤ農奴解放における農民への土地用益権付与の性格．早稲田政治経済学雑誌（244/245），453-480（1, 1976）．
115 高田和夫：近代ロシア労働者論・覚え書—ロシコーヴァの近著によせて．ロシア史研究（25），54-61（6, 1976）
116 高橋 馨：ロシア革命における永続革命論争（1-6）．現代思想 4（2），148-156；4（3），210-222；4（4），215-225；4（6），226-239；4（11），223-235；4（13），248-252（2-12, 1976）．
117 辻 義昌：ロシアにおける工場委員会の構造と機能．社会政策学会年報（20），169-203（5, 1976）．
118 梅田美代子：ソ連におけるコミンテルン史研究の動向—コミンテルン第7回大会40周年によせて．労働運動史研究（59），233-240（6, 1976）．
119 和田春樹：自由民権運動とナロードニキ．歴史公論 2（1），61-73（1, 1976）．

120　和田春樹：ソ連における歴史家と歴史学—ソ連史学史ノート (1)—スターリン批判後20年．ロシア史研究 (25), 2-32 (6, 1976).

121　若松　寛：ロシア史料より見たグシ汗の事績．史林　59 (6), 874-901 (11, 1976).

122　矢田俊隆：オーストリア＝ハンガリー二重帝国の構造と特質—ハンガリーの立場を中心に（5完）．北大法学論集　26 (3), 435-510 (1, 1976).

123　八重樫喬任：15世紀ロシア黒土農民の土地紛争．天理大学学報 (105), 112-128 (9, 1976).

124　山藤　彰：ロシア革命と二重権力—現代革命の学ぶべき権力問題．唯物史観 (16), 115-132 (4, 1976).

125　山縣弘志：ズバートフシチナ—ロシアの警察的組合主義．駒沢大学経済学部研究紀要 (34), 1-112 (3, 1976).

126　山極　潔：スターリンと人民戦線—B. レイプゾン；K. シリーニャ「コミンテルの政策転換」批判．歴史学研究 (435), 40-47 (8, 1976).

127　山本治夫：基軸時代のバルト＝スラヴ圏の比較科学的研究序説 (1)．福岡大学研究所報 (27), 79-245 (3, 1976).

128　山本俊朗：1812年のスペランスキー．史観 (94), 27-36 (2, 1976).

129　山内昭人：ボリシェヴィキとツィンメルヴァルト運動—1917年3月-11月．史林　59 (5), 79-118 (9, 1976).

130　山内昌之：トルコ革命と社会主義—イスラムおよび民主主義との関連において．思想 (623), 24-45 (5, 1976).

R-131　淡路憲治：和田春樹「マルクス・エンゲルスと革命ロシア」．歴史学研究 (433), 72-78 (6, 1976).

R-132　日南静真：和田春樹著「マルクス・エンゲルスと革命ロシア」．史学雑誌　85 (11), 82-91 (11, 1976).

R-133　小山皓一郎：「掌院セルギイ北海道巡回記」，宮田洋子訳．えうゐ (3), 66-68 (6, 1976).

R-134　増田四郎：渡辺金一著「ビザンツ社会経済史研究」．社会経済史研究　42 (2), 210-217 (9, 1976).

R-135　高田和夫：菊地昌典編「ソビエト史研究入門」．歴史学研究 (438), 64 (11, 1976).

R-136　山之内　靖：和田春樹著「マルクス・エンゲルスと革命ロシア」．社会科学研究（東大）　28 (6), 320-353 (3, 1977).

R-137　吉田金一：露中関係史をめぐる諸問題—スライドコフスキー著「露中商業経済関係史」を読んで．東洋学報　56 (2/3/4), 343-373 (3, 1975).

1.3 文　　学

138　バーク (Burg, D.)；ファイファー (Feifer, G.)：ソルジェニツィン伝　1-2, 栗原成郎；村手義治訳．東京　河出書房新社　1976. 2冊，ソルジェニツィン年譜 (2)　223-227.

139　チャペック (Čapek, Karel)：ひとつのポケットから出た話，栗栖　継訳（文学のおくりもの15)．東京　晶文社　1976. 280.

140　ジョーミン (Дёмин, М.)：日は鉄格子に昇る　1-2, 工藤正広訳．東京　講談社　1976. 2冊.

141　ドストエフスキー—文芸読本．東京　河出書房新社　1976. 327. ドストエフスキー文献（近田友一編)，307-327.

142　エイヘンバウム (Эйхенбаум, Б. М.)：若きトルストイ—初期作品群の研究，山田吉二郎訳．東京　みすず書房　1976. 228.

143　フリドレーンヂェル (Флидлендер, Г. М.)：ロシア・リアリズム文学—その詩的性格，大野道弘訳．東京　啓隆閣　1976. 340.

144　福田光治；剣持武彦；小玉晃一編：欧米作家と日本近代文学　3—ロシア・北欧・南欧編（比較文学シリーズ)．東京　教育出版センター　1976. 364.

145 ゴーゴリ (Гоголь, Н. В.): ゴーゴリ全集 5—死せる魂 第1部 (中村 融訳). 東京 河出書房新社 1976, 398.
146 評伝ロシアの作家たち—プーシキン, レールモントフ, ツルゲーネフ, ドストエフスキー, チェーホフ, トルストイ, 宮沢俊一訳. モスクワ プログレス出版所 (東京 ナウカ) 1976. 368.
147 ヤーヴォロフ (Яворов, П. К.): ふたつの情念—ヤーヴォロフ詩集, 八百坂洋子訳. 東京 新読書社 1976, 141.
148 岩波講座文学 5; 表現の方法 2, 世界文学 2. 東京 岩波書店 1976. 328.
149 岩波講座文学 8; 表現の方法 5, 新しい世界の文学. 東京 岩波書店 1976. 367.
150 岩波講座文学 9; 表現の方法 6, 研究と批評 1. 東京 岩波書店 1976. 342.
151 岩波講座文学 10; 表現の方法 7, 研究と批評 2. 東京 岩波書店 1976. 402.
152 岩波講座文学 11; 現代世界の文学 1. 東京 岩波書店 1976. 362.
153 神西 清: 神西清全集; 6. 東京 文治堂書店 1976. 568, 神西清年譜・著作目録・翻訳書目一覧 (巻末).
154 川崎 浹: ソ連の地下文学 (朝日選書 56). 東京 朝日新聞社 1976. 314, 5.
155 カラリコーヴァ (Короликова, А. Н.) 〔述〕: ロシアの昔話, 田中泰子訳, (世界民間文芸叢書 4). 東京 三弥井書店 1976, 514.
156 工藤正広: パステルナークの詩の庭で—工藤正広試論集. 東京 白馬書房 1976. 245.
157 草鹿外吉; 高橋勝之; 山村房次編: 世界短編名作選—ロシア編. 東京 新日本出版社 1976. 298.
158 レールモントフ (Лермонтов, М. Ю.): レールモントフ選集 2, 池田健太郎; 草鹿外吉共編. 東京 光和堂 1976. 197.
159 マンデリシュターム (Мандельштам, О. Е.): 時のざわめき, 安井侑子訳. 東京 中央公論社 1976. 180.
160 昇 曙夢: ロシヤ・ソヴェート文学史. 東京 恒文社 1976. 658, 18, 著作年譜 625-631.
161 岡沢秀虎: ロシア19世紀文学史 2. 東京 早稲田大学出版部 1976. 414.
162 ロシア・西欧・日本—木村彰一教授還暦記念論文集, 同刊行委員会編. 東京 朝日出版社 1976. 820, 木村彰一教授略歴・著作年表.
163 露滴集—小澤政雄訳詩集. 東京 昭森社 1976. 154.
164 スローニム (Slonim, M. L.): ロシア文学史, 池田健太郎訳. 東京 新潮社 1976. 429.
165 スローニム (Slonim, M. L.): ソビエト文学史, 池田健太郎; 中村喜和訳. 東京 新潮社 1976. 485.
166 ソルジェニーツィン (Солженицын, А. И.): 仔牛が樫の木に角突いた—ソルジェニーツィン自伝, 染谷 茂; 原 卓也訳. 東京 新潮社 1976. 597.
167 ソルジェニーツィン (Солженицын, А. И.): 収容所群島: 1918-1956—文学的考察 3-4, 木村浩訳. 東京 新潮社 1976. 2冊.
168 ザボー (Szabó, Magda): 鹿—ある舞台女優の告白, 桑島カタリン訳, (東欧の文学). 東京 恒文社 1976. 211.

169 天野 洋: ドストエフスキーにおける「白夜」. ロシア手帖 (9), 23-26 (6, 1976).
170 安藤 厚: ニヒリスト以後の「ニヒリストたち」—ドストエフスキーの『悪霊』とレスコフの『いがみあい』をめぐって. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
171 新谷敬三郎: 概観—日本におけるロシア文学. →〔144〕 欧米作家と日本近代文学 3.
172 浅岡宣彦: エセーニンの詩における都市と農村. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
173 坂内徳明: ロシアの霊魂鳥. ロシア手帖 (9), 12-15 (7, 1976).
174 ブローク (Брок, А.): ブローク詩抄 (3), 小平 武訳. えうゐ (3), 39-47 (6, 1976).
175 千野栄一: ソビエトにおけるカレル・チャペック. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
176 中条直樹: プーシキンの諸作品に於ける形容詞. 名古屋大学教養部紀要 C (21), 261-275 (3,

1977).
177　ダンロップ (Dunlop, John): 亡命中のソルジェニーツィン (1)—祖国への愛; (2)—不動の信念. 自由 18 (3), 167-176; 18 (4), 150-159 (3-4, 1976).
178　江原光太: ゴーリキィ祭前後. えうゐ (3), 60-65 (6, 1976).
179　江川　卓: ソルジェニーツィンの課題, →〔149〕 岩波講座文学 8.
180　榎本重男: 検察官がやってくる—二つの喜劇「こわれがめ」と「検察官」について. 人文社会科学研究 (早大) (13), 67-94 (3, 1976).
181　江竜龍太郎: ラブレーツィとリーザ. 彦根論叢 (滋賀大) (178), 36-49 (3, 1976).
182　藤沼　貴: レフ・トルストイの西欧旅行—その原因についての一考察. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
183　藤沼　貴: モスクワの「アンナ・カレーニナ」—オブロンスキーの家. 図書 (322), 49-53 (6, 1976).
184　藤沼　貴: モスクワの断想—トルストイの最後のことば. 窓 (19), 2-5 (12, 1976).
185　福岡星児: キイの伝説をめぐって. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
186　後藤明生: ゴーゴリの墓碑銘. 窓 (17), 2-5 (6, 1976).
187　灰谷慶三:「狂人日記」におけるポプリーシチンの狂気. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
188　原　卓也: アンナと離婚. ロシア手帖 (9), 9-11 (7, 1976).
189　原川恭一: フォークナーとドストエフスキー—影響と合流. 学鐙 73 (5), 16-19 (5, 1976).
190　長谷見一雄: ベールイとゴーゴリ—比喩をめぐって. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
191　平川祐弘: 西欧化の社交界—プーシキン「ロスラーヴレフ」と芥川の『舞踏会』. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
192　平岡誠司: 説話の深層構造—構造説話論序説 1. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
193　市原初男: ロシア・ソヴェート文学出版夜話—古いアルバムから. えうゐ (3), 82-85 (6, 1976).
194　出　かず子: エロシェンコのこと. えうゐ (3), 147 (6, 1976).
195　出　かず子: ペチョーリンの夜道の瞑想. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
196　出　かず子: 短編「タマーニ」—レールモントフにおけるアイロニーの表現. スラヴ研究 (21), 1-29 (10, 1976).
197　井桁貞義: ドストエフスキー研究展望—最近約10年間のソ連・欧米を中心に (2)—いわゆる影響の受容体として. 比較文学年誌 (12), 35-55 (3, 1976).
198　井桁貞義:「罪と罰」における聖書モチーフの使用について. ロシヤ語ロシヤ文学研究 (8), 48-631 (2, 1976).
199　イーゴリ遠征譚 (訳及び注) (5), 木村彰一訳. スラヴ研究 (21), 51-54 (10, 1976).
200　池田健太郎: 広津和郎におけるチェーホフの問題. →〔151〕 岩波講座文学 10.
201　池田健太郎: ヒトロヴォー夫人とその娘たち—プーシキン伝記の余白に. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
202　池田健太郎: ロシアの流れを読む. 波 10 (5), 22-25 (5, 1976).
203　井上光晴: 官僚「社会主義」とファシズム下の表現. →〔152〕 岩波講座文学 11.
204　諫早勇一:「影」たちの自立—「マーシェンカ」をめぐって. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
205　一色真理: マヤコフスキー覚書 (14-18完). 詩学 31 (1), 37-39; 31 (2), 52-56; 31 (3), 38-41; 31 (4), 54-58; 31 (5), 50-53 (1-5, 1976).
206　伊東一郎: ゴーゴリとウクライナ・フォークロア. ヨーロッパ文学研究(24), 91-112 (12, 1976).
207　貝沼一郎: K. チェレフコ氏の「古事記」のロシア語訳について. えうゐ (3), 79-81 (6, 1976).
208　亀山郁夫:「時間」の憑依—フレーブニコフ試論. →〔162〕 ロシア・西欧・日本.
209　金子幸彦: ルサルカ (水の精) について, (ろしや文学閑話 5). 窓 (17), 22-27 (6, 1976).
210　金子幸彦: ヴィヤトカ時代のゲルツェン—メドヴェーヂェヴァ夫人との恋と小説「エレーナ」, (ろしや文学閑話 6). 窓 (19), 29-35 (12, 1976).
211　鹿島由紀子: 風に光る……—「未成年ノート」を読んで. えうゐ (3), 17-25 (6, 1976).

212 鹿島由紀子：自然と情熱の発見 (2)—「戦争と平和」を中心に．→〔148〕 岩波講座文学 5.
213 鹿島由紀子：トルストイと「リア王」．→〔162〕 ロシア・西欧・日本．
214 川端香男里：ロシア幻想文学—系譜．文芸 15 (11), 16-17 (11, 1976).
215 川端香男里：世界観，世界像と小説—バルザックとドストエフスキー．→〔148〕岩波講座文学 5.
216 川端香男里：ヴォギュエの「ロシア小説」をめぐって．→〔162〕 ロシア・西欧・日本．
217 川端香男里：私の露西亜文学事始．ちくま (89), 28-32 (9. 1976).
218 川上久寿：ソ連における瞿秋白 (1)．人文研究（小樽商大）(52), 26-42 (12, 1976).
219 川崎 浹：ロシア・フォルマリズム 序論—切断と異化の論理．現代思想 4 (13), 218-139 (12, 1976).
220 川崎 浹：トルストイのマクシマリズム．学鐙 73 (2), 20-23 (2, 1976).
221 菊地昌実：カミュとドストエフスキー—「転落」をめぐって．→〔162〕 ロシア・西欧・日本．
222 木村 浩：「収容所群島」をめぐって—ある亡命ロシア人との対話．世界 (369), 113-122 (8, 1976).
223 木村 毅 (1894)：トルストイと私．学鐙 73 (5), 4-7 (5, 1976).
224 木村 毅 (1928)：地下生活者の手記—その周辺と内容．東北大教養部紀要 (23), 140-123 (2, 1976).
225 金 芝 河：獄中手記—ソルジェニーツィンと私，池中栄一訳．文芸春秋 54 (10), 326-338 (10, 1976).
226 北垣信行：レフ・トルストイとレーピン．→〔162〕 ロシア・西欧・日本．
227 北垣信行：トルストイ夫妻と「悪魔」．学鐙 73 (4), 12-15 (4, 1976).
228 北岡誠司：バフチンの死．比較文学研究 (29), 199-201 (4, 1976).
229 北岡誠司：ベリンスキーと構造説話論—「形象（イメージ）による思考」ということを中心に．→〔150〕 岩波講座文学 9.
230 北岡誠司：構造説話論の方法 (2)．えうゐ (3), 136-139 (6, 1976).
231 清田文武：森鷗外とクラウゼヴィッツ及びトルストイ—「純抵抗」を中心として．文芸研究（日本文芸研究会）(82), 12-21 (6, 1976).
232 小平 武：ブローク「薔薇と十字架」考．→〔162〕 ロシア・西欧・日本．
233 小原雅俊：ヴィトカツィのカタストロフィズム．→〔162〕 ロシア・西欧・日本．
234 小泉浩一郎：白鳥とトルストイ—「トルストイについて」「大 15. 7」をめぐり．東海大学紀要 文学部 (24), 47-54 (2, 1976).
235 近喰公業：二つのロシヤの詩．窓 (19), 36-37 (12, 1976).
236 小沼文彦：ドストエフスキー．→〔151〕 岩波講座文学 10.
237 小沼文彦：ドストエフスキー．→〔144〕 欧米作家と日本近代文学 3.
238 久保忠夫：トルストイ．→〔144〕 欧米作家と日本近代文学 3.
239 工藤正広：マヤコフスキーとパステルナーク—詩集の上に書かれた二つの献詩から．現代詩手帖 20 (4), 210-220 (4, 1976).
240 工藤精一郎：「どん底」ノート (2)．ロシア手帖 (9), 16-19 (7, 1976).
241 倉持三郎：D. H. Lawrence とロシア文学—トルストイ体験をめぐって．東京学芸大学紀要 第2部門 (28), 68-80 (10, 1976).
242 栗原成郎：スカタル城邑建設考—セルボ・クロアト民衆叙事詩における人柱の歌．→〔162〕 ロシア・西欧・日本．
243 栗原幸夫：プロレタリア文学運動における理論と批評．→〔150〕 岩波講座文学 9.
244 栗栖 継：チェコ作家の自由出版—ペトリツェ叢書のこと．世界 (369), 123-130 (8, 1976).
245 草鹿外吉：レフ・トルストイの生涯と作品．文化評論 (186), 137-145 (10, 1976).
246 沓掛良彦：ロモノーソフと古典古代の詩人—若干の作品と翻訳を通じて見る古典古代の詩文学への関心．→〔162〕 ロシア・西欧・日本．
247 松本忠司：ゴーリキイの詩作 (3)．えうゐ (3), 93-102 (6, 1976).

48 水野忠夫：マヤコフスキーとカンデンスキー—革命後の非具象主義．→〔148〕岩波講座文学 5.
49 本村敏雄：飢え・寒さ・営倉—ソルジェニーツィンを読む．群像 31 (9), 240-255 (9, 1976).
50 中村健之介：ドストエフスキーの手紙あれこれ (2)．えうゐ (3), 12-16 (6, 1976).
51 中村健之介：「かよわい心」—ドストエフスキーの自覚．スラヴ研究 (21), 31-50 (10, 1976).
52 中村健之介：コマローヴィチ「ドストエフスキーの青春」(紹介)．えうゐ (3), 26-27 (6, 1976).
53 中村健之介：「ポルズンコフ」の道化—ドストエフスキー的ということの一面．→〔162〕ロシア・西欧・日本.
54 中村健之介：想像力が人間の内界に入りこむ契機—ドストエフスキーの小説の成立．→〔148〕岩波講座文学 5.
55 中村喜和：「イーゴリ軍記」における色彩感．→〔162〕ロシア・西欧・日本.
56 直野　敦：ドストエフスキーとディケンズ．→〔162〕ロシア・西欧・日本.
57 直野　敦：ロシアにおけるディミトリエ・カンテミール．窓 (19), 15-22 (12, 1976).
58 大塚達也：影響ということ—トルストイと蘆花．えうゐ (3), 78 (6, 1976).
59 小沢政雄：「露滴集」の研究で博士になった話．窓 (17), 18-21 (6, 1976).
60 パステルナーク (Пастернак, Б. Л.)：リュヴェルスの少女時代 2部—異邦人 (1-2)，工藤正広訳．北方文芸 9 (1), 80-95; 9 (4), 48-64 (1-4, 1976).
61 佐々木　彰：プーシキンの「石像の客」をめぐって．→〔162〕ロシア・西欧・日本.
62 佐々木基一：社会主義とリアリズム．→〔148〕岩波講座文学 5.
63 佐藤清郎：ツルゲーネフとふたつの革命—中道者の眼．→〔162〕ロシア・西欧・日本.
64 佐藤靖彦：「イーゴリ軍記」とブィリーナにおける白鳥の形象．→〔162〕ロシア・西欧・日本.
65 沢崎洋子：チェーホフの無名の主人公たち—「無名化の話」について．→〔162〕ロシア・西欧・日本.
66 沢崎洋子：チェーホフと信仰者たち (2)．えうゐ (3), 103-107 (6, 1976).
67 シュルツ (Schulz, Bruno)：春，工藤幸雄訳．辺境 (14), 10-59 (5, 1976).
68 柴田信子：ドストイェーフスキー「クロートカヤ」論．京都産業大学論集 5 (4), 20-43 (11, 1976).
69 島田　陽：チュッチェフの詩における「呼びかけ」の意味について．→〔162〕ロシア・西欧・日本.
70 清水邦生：「煙」についての一試論．同志社外国文学研究 (14), 1-26 (3, 1976).
71 清水孝純：ドストエフスキーと道化 (3)．文学論輯（九大）(23), 29-54 (3, 1976).
72 清水孝純：日本におけるドストエフスキー—大正初期に見る紹介・批評の状況，→〔162〕ロシア・西欧・日本.
73 相馬守胤：シチェドリンとドストエフスキイとの論争素描 (2-3)．文化と言語（札幌大）9 (2), 85-95; 10 (1), 67-81 (3-10, 1976).
74 相馬守胤：シチェドリンとマルクス主義．えうゐ (3), 114-116 (6, 1976).
75 杉山康彦：二葉亭四迷とゴンチャロフ．現代詩手帖 19 (7), 76-85 (6, 1976).
76 高山　旭：亡命後のブーニン．人文論集（早大法学会）(14), 163-133 (2, 1977).
77 高山　旭：ブーニンのトルストイ論．学鐙 73 (1), 22-25 (1, 1976).
78 田中継根：ペチョーリンの「地下室」．→〔162〕ロシア・西欧・日本.
79 寺田　透：ドストエフスキーを読む (12-15)．文芸展望 (12), 288-308; (13), 302-324; (14), 366-388; (15), 279-304 (1-10, 1976).
80 津久井定雄：「1829年の遠征時のアルズルーム旅行」．→〔155〕ロシア・西欧・日本.
81 内村剛介：革命のさなかのマザー・グース—コルネイ・チュコフスキー作の唄．現代詩手帳 19 (3), 159-161 (3, 1976).
82 内村剛介：パリのロシア 76 (1-4完)．文芸 15 (5), 223-229; 15 (7), 198-204; 15 (9), 222-227; 15 (11), 208-213 (5-11, 1976).
83 内村剛介：ロシアに「ナショナルな」地霊—ゴーゴリとドストエフスキー．→〔148〕岩波講座

文学 5.

284 内村剛介：ソルジェニツィンの影—編集者への手紙．えうゐ (3), 140-141 (6, 1976).

285 和久利誓一：ロシア文学の植物 (1)．えうゐ (3), 152-155 (6, 1976).

286 鷲巣繁男：パニヒダ祈禱私感 (2)．えうゐ (3), 28-38 (6, 1976).

287 渡辺雅司：評論家ピーサレフとアフォリズム．えうゐ (3), 118-123, 139 (6, 1976).

288 渡辺 武：日本におけるチェーホフ．えうゐ (3), 74-77; 139 (6, 1976).

289 山田 恒：チェーホフとパロディ．早稲田大学大学院文学研究科紀要別冊 (2), 95-110 (3, 1976).

290 山田吉二郎：ブローークの「詩と真実」．→〔162〕 ロシア・西欧・日本.

291 山田吉二郎：ブロークを語る—待つことと出会うこと．えうゐ (3), 48-59 (6, 1976).

292 山村房次：ゴーリキの鏡に写ったトルストイ像．学鐙 73 (3), 12-15 (3, 1976).

293 柳 富子：チェーホフ．→〔144〕 欧米作家と日本近代文学 3.

294 安田保雄：ツルゲーネフ．→〔144〕 欧米作家と日本近代文学 3.

295 安井亮平：ワディーム・コージノフの仕事．→〔162〕 ロシア・西欧・日本.

296 安村仁志：トルストイの「懺悔」分析表 (1-3)．中京大学教養論叢 16 (4), 1-30; 17 (1), 1-32; 17 (2), 1-39 (3-9, 1976).

297 矢沢英一：チェーホフの不幸な人物たち—焚火をかこむ人々．えうゐ (3), 108-113 (6, 1976).

298 米川哲夫：プーシキン「農村」に関するふたつの問題．→〔162〕 ロシア・西欧・日本.

299 吉上昭三：「青銅の騎士」におけるミッキェヴィッチ．→〔162〕 ロシア・西欧・日本.

300 吉沢慶一：挫折した愛と成就した愛—ドストエフスキイ試論 (3)．明治学院論叢 (237), 25-43 (1, 1976).

R-301 木村明生：A. ソルジェニーツィン著，染谷 茂；原 卓也訳，「仔牛が樫の木に角突いた」．革新 (72), 100-109 (7, 1976).

R-302 佐々木基一：ソルジェニーツィン著「仔牛が樫の木に角突いた」．波 10 (3), 28-29 (3, 1976).

R-303 内村剛介：ソルジェニーツィン著「収容所群島」(3-4)．波 10 (7), 26-27 (7, 1976).

R-304 山田吉二郎：Б. Эйхенбаум; Лев Толстой, Семидесятые годы, 1974. ロシヤ語ロシヤ文学研究 (8), 117-120 (12, 1976).

R-305 山口昌男：フォルマリズムの魅力—ボリス・エイヘンバウム著，山田吉二郎訳「若きトルストイ」．海 8 (11), 194-196 (11, 1976).

1.4 言　　語

306 井桁貞敏編：コンサイス和露辞典 第2版．東京 三省堂 1976. 921.

307 ハブローニナ (Хавронина, С.)：ロシア語を話しましょう 第2版，ロシェツキニ訳．モスクワ『ロシア語』出版所 (東京 ナウカ) 1976. 260.

308 リプシッツ (Lipszic, H.); 吉上昭三：標準ポーランド会話．東京 白水社 1976. 235.

309 直野 敦編：ルーマニア語小辞典．東京 大学書林 1976. 282.

310 日ソ学院教科書委員会：実用ロシア語文法 第1部．東京 日ソ学院 1976. 170.

311 ヴォロシノフ (Волошинов, В. Н.); バフチーン (Бахчин, М. М.)：マルクス主義と言語哲学—言語学における社会学的方法の基本的諸問題，桑野 隆訳．東京 未来社 1976. 294.

312 ウォーカー (Walker, G. P. M.)：ライブラリアンのためのロシア語，亀山芳子訳．東京 ナウカ 1976. 103.

313 千葉萌一郎：男性名詞複数語尾 -ам, -ами, -ах について．文化と言語 (札幌大) 9 (2), 117-121 (3, 1976).

314 千野栄一：海外の言語学 (ポーランド・チェコ)．言語 5 (7), 77-79 (7, 1976).

315 千野栄一：海外の言語学 (ソビエト)．言語 5 (1), 66-67; 5 (9), 62-63 (1; 9, 1976).

316　千野栄一：プラーグ学派の詩学．言語　5 (3), 10-17 (3, 1976).
317　井桁貞敏：本居宣長や河竹黙阿弥の頃の露和辞典．窓 (16), 6-11；49 (4, 1976).
318　稲垣兼一他：ロシア語受講者の意識と意見（調査資料）．中京大学教養論叢　17 (2), 537-563 (9, 1976).
319　稲垣敏夫：ロシア語数量副詞 очень および много の分類とその用法．国士館大学教養論集 (3), 83-92 (6, 1976).
320　石田修一：ロシア語の語順規範成立におけるロマノーソフの役割について．大阪外国語大学学報 (35), 1-14 (3, 1976).
321　磯谷　孝：言語コミュニケーションと意識の構造．ロシヤ語ロシヤ文学研究 (8), 22-33 (12, 1976).
322　磯谷　孝：20世紀言語思想の横断者ヤコブソン．現代思想　4 (13), 140-153 (12, 1976).
323　伊藤太吾：ルーマニア語の起源について．大阪外国語大学学報 (35), 15-30 (3, 1976).
324　岩井憲幸：ゴシケービチ・橘　耕斎「和魯通言比考」とシーボルト「日本動物誌」—基礎的研究の一資料．ロシヤ語ロシヤ文学研究 (8), 76-93 (12, 1976).
325　岩井憲幸：「魯西亜語覚書」について．早稲田大学図書館紀要 (17), 66-73 (3, 1976).
326　ヤコブソン (Jakobson, Roman)；山口昌男：20世紀の知的青春．世界 (372), 314-327 (11, 1976).
327　ローマン・ヤーコブソン—現代言語学の巨匠（特集）：ヤーコブソンの言語学（服部四郎）；ヤーコブソンの詩学瞥見（川本茂雄）；ヤーコブソンの音韻論（小泉　保）；ことばの獲得とその喪失（今井邦彦）；ヤーコブソンと人類学—音韻論の啓示（大橋保夫）；言語学の倫理性（小松英輔訳）；ヤーコブソンの軌跡（千野栄一）；「資料」海外のヤーコブソン（川本茂雄）；「資料」ローマン・ヤーコブソン年譜（千野栄一；金川竹二）．言語　5 (2), 2-64 (2, 1976).
328　笠間啓治：Третьяковская галерея の日本語表記をめぐって．人文社会科学研究（早大理工）(13), 127-141 (3, 1976).
329　川崎直一：ラトヴィアの Libeks とリトワニアの Dombrovski—初期の Esperanto 文献．奈良大学紀要 (5), 1-14 (12, 1976).
330　桑野　隆：ボガトゥイリョフ—現代記号学の先駆者．言語　5 (8), 24-29 (8, 1976).
331　「窓」編集部：「現代ロシア・標準語辞典」の改訂増補版について．窓 (18), 43-45 (9, 1976).
332　村山七郎：ポリワーノフについて．窓 (18), 16-22 (9, 1976).
333　佐々木秀夫；岡本哲也：イワン4世雷帝が A. クールブスキーに与えた1564年の書簡—電算機によるその分析と総合 (1)．愛知大学文学論叢 (56/57), 510-471 (11, 1976).
334　佐々木秀夫：子音と子音との間にある母音 ъ, ь と子音 р, л との結びつきについて (2)．愛知学院大学論叢 (55), 200-186 (3, 1976).
335　佐藤純一：古典主義期ロシアの言語理論．→〔162〕ロシア・西欧・日本．
336　佐藤純一：ソフィアのブルガリア語学文学講習会．窓 (19), 6-9 (12, 1976).
337　城田　俊：現代ロシア語の子音の結合．外国語・外国文学研究（北大）(22), 93-149 (3, 1976).
338　滝沢一郎：ヴィノグラードフの変容．防衛大学校紀要 (33), 121-129 (9, 1976).
339　玉木英彦：Обратный словарь の効用の例．ロシヤ語ロシヤ文学研究 (8), 124-126 (12, 1976).
340　浦井康男：普通名詞の特異性—述語の場合．ロシヤ語ロシヤ文学研究 (8), 34-47 (12, 1976).
341　山口　巌：準他動詞について．ロシヤ語ロシヤ文学研究 (8), 1-12 (12, 1976).
342　山口昌男：ヤコブソンとの出逢い．世界 (372), 328-332 (11, 1976).
343　米重文樹：直視と巨視—ロシア語のもつある特質について．→〔155〕ロシア・西欧・日本．
R-344　池上二良：「ツングース・満州諸語比較辞典」について．窓 (16), 54-55 (4, 1976).
R-345　伊東一郎：《Контекст・1973》Наука, M., 1974. ロシヤ語ロシヤ文学研究 (8), 109-112 (12, 1976).
R-346　桑野　隆：Jan Niecisław Baudouin de Courtenay："Dzieła wybrane（選集）", t. 1 (Red. tomu 1-Przemysław Zwoliński) 1974. ロシヤ語ロシヤ文学研究 (8), 113-116 (12, 1976).

R-347 増田幸子：G. P. M. ウォーカー著，亀山芳子訳，「ライブラリアンのためのロシア語」．窓 (19), 49 (12, 1976).

R-348 佐藤純一：Б. А. Успенский; Первая грамматика народном языке. ロシヤ語ロシヤ文学研究 (8), 98-102 (12, 1976).

R-349 城田 俊：博友社ロシア語辞典．えうゐ (3), 116-117 (6, 1976).

R-350 田中継根：J. Forsyth; A Grammar of Aspect, Usage and Meaning in the Russian Verb. ロシヤ語ロシヤ文学研究 (8), 103-108 (12, 1976).

R-351 宇多文雄：ア・ア・アキーシナ，エヌ・イ・フォルマノフスカヤ「ロシア語会話エチケット」．窓 (18), 46-47 (9, 1976).

R-352 湯通堂長大：「和露科学技術辞典」を手にして．窓 (19), 50-51 (12, 1976).

1.5 心理学，教育学，体育

353 ハンガリー保育園における教授—体育・環境認識・数，イロナ〔他〕著，コダーイ芸術教育研究所訳．東京 明治図書出版 1976. 283.

354 コルスンカヤ (Корсункая, Б. Д.)：耳の聞えない子どもにコトバを—ソビエトの聾唖児教育，坂本市郎訳．東京 鳩の森書房 1976. 345.

355 クルプスカヤ (Крупская, Н. К.)：クルプスカヤ選集 7 国民教育と民主主義，五十嵐 顕；海老原 遙；飯野節夫訳．東京 明治図書出版 1976. 180.

356 クルプスカヤ (Крупская, Н. К.)：クルプスカヤ選集 8 婦人の解放と教育，石井郁子；関啓子訳．東京 明治図書出版 1976. 173.

357 日本児童研究所：児童心理学の進歩 1976年版．東京 金子書房 1976. 240.

358 世界教育史大系 15；ロシア・ソビエト教育史 1. 東京 講談社 1976. 383.

359 世界教育史大系 25；中等教育史 2. 東京 講談社 1976, 416, 6.

360 世界教育史大系 29；教育財政史．東京 講談社 1976, 461, 4.

361 世界教育史大系 38；道徳教育史 1. 東京 講談社 1976, 429, 5.

362 柴田義松；川野辺 敏編：資料 ソビエト教育学—理論と制度．東京 新読書社 1976. 751.

363 トミアク (Tomiak, J. J.)：ソビエトの学校，大柴 衛；海老原 遙訳（シリーズ 世界の教育改革 2)．東京 明治図書出版 1976. 164.

364 ヴィゴツキー (Выготский, Л. С.)：児童心理学講義，柴田義松；森岡修一訳（海外名著選 67)．東京 明治図書出版 1976. 234.

365 浅井 潔：ソビエトの保育—風土・社会・生活と保育 (1)．浜松短大研究論集 (17), 148-112 (4, 1976).

366 海老原 遙：学校「改革」対教育運動—資本主義発展の時期における教育．→〔358〕 世界教育史大系 15.

367 海老原 遙：夢想と反動と批判と—農奴制の危機の時期における教育．→〔358〕 世界教育史大系 15.

368 海老原 遙：農奴制の危機の時期における教育—ニコライ1世の教育政策・覚書．鹿児島県立短期大学紀要：人文・社会科学編 (27), 1-10 (12, 1976).

369 エリコニン (El'konin, D. B.)：あそび—子供の生活と発達におけるその地位と役割，照屋敏勝訳．沖縄キリスト教短期大学紀要 (4), 141-151 (12, 1976).

370 藤田輝夫：J. A. コメンスキーにおける社会改造と教育の思想．秋田大学教育学部研究紀要 教育科学 (26), 101-130 (2, 1976).

371 浜本純逸：ソビエト入門期教科書「文字の本（アーズブカ)」の指導書（翻訳と紹介)．福岡教育大学紀要 第4部 教職編 (25), 167-172 (2, 1976).

372 浜本純逸：ヴォドヴォーゾフの文学教育論．→〔358〕 世界教育史大系 15.

373　長谷川　淳：海外教授学研究情報 (22)—ソビエト—生産教授の教授学の基礎．現代教育科学 20 (1), 113-131 (1, 1977).

374　平野正久：ドイツの戦後中等教育改革—西と東の2つの道．→〔359〕 世界教育史大系 25.

375　市川　博：海外教授学研究情報 (11)—中国—地域に根ざす教育—ソビエト教育批判と実践報告．現代教育科学 19 (2), 114-131 (2, 1976).

376　井田　薫：マカレンコの教育論における集団の基本問題．大阪府立大学紀要　人文・社会科学 (24), 39-51 (3, 1976).

377　池田貞雄：ルーシからロシアへ．→〔358〕 世界教育史大系 15.

378　井ノ口淳三：コメニウスにおける幼児教育論の展開とその背景．京都大学教育学部紀要 (22), 29-37 (3, 1976).

379　入江克巳：ロシアにおける近代体育の成立と発展過程．→〔358〕 世界教育史大系 15.

380　石井郁子；中川　清：歴史の発展的教授＝学習について—ソビエトの問題的教授＝学習をめぐる論争から．大阪教育大学紀要 5 教育科学 24 (2), 143-160 (2, 1976).

381　石井郁子：海外教授学研究情報 (12)—ソビエト—歴史の授業における問題法について (エヌ・ゲ・ダイリ)．現代教育科学 19 (3), 117-131 (3, 1976).

382　川野辺　敏：ソ連の教育制度．窓 (18), 10-15 (9, 1976).

383　川野辺　敏：ソビエトの社会主義的中等教育の模索．→〔359〕 世界教育史大系 25.

384　貴島正秋：コメニウスの「世界の迷路と魂の楽園」における学問・教育批判．芦屋大学論集 (1), 185-196 (3, 1976).

385　清原　浩：後進国ロシアの発展と中等教育．→〔359〕 世界教育史大系 25.

386　清原　浩：ロシアにおける商工業の発達と中等教育の立遅れ．→〔359〕 世界教育史大系 25.

387　黒川泰男：ソ連の英語教育の現状 (1-2完)．窓 (17), 11-17；(18), 23-29 (6-9, 1976).

388　森重義彰：ソビエト連邦における中等教育建設の展開．→〔359〕 世界教育史大系 25.

389　森重義彰：ソビエト・ロシアの革命と道徳教育．→〔361〕 世界教育史大系 38.

390　岡村達雄：ソビエト教育職員賃金制度の成立と展開—「賃金制度」の構造と理論．→〔360〕 世界教育史大系 29.

391　佐々木弘明：啓蒙と専制の政治．→〔358〕 世界教育史大系 15.

392　佐々木弘明：貴族政治と教育の階層化．→〔358〕 世界教育史大系 15.

393　佐々木弘明：ロシアの近代化のはじまりと学校教育の制度化．→〔355〕 世界教育史大系 15.

394　佐藤芳男：ソビエトにおける思考研究の動向．→〔357〕 児童心理学の進歩．

395　関　啓子：クループスカヤにおけるトルストイの影響．一橋論叢 75 (6), 698-704 (6, 1976).

396　菅原　徹：ソビエト心理学における「発達」の問題．明治大学人文科学研究所紀要　教育学 (14), 1-27 (3, 1976).

397　竹田正直：第1次ロシア革命と教育運動．→〔358〕 世界教育史大系 15.

398　所　仲一：2月革命期の教育課題．→〔358〕 世界教育史大系 15.

399　富山　清：ソ連におけるスポーツ論の展開．佐賀大教養部研究紀要 (8), 99-130 (3, 1976).

400　豊村洋子：N. K. クループスカヤ教育学の遺産と継承—労働教育との関連で．北海道教育大学紀要　第1部 C　教育科学編 27 (1), 1-12 (9, 1976).

401　豊田久亀：東独教育学の研究 (2)—人格発達の理論．人文研究 28 (5)；教育学，36-60 (11, 1976).

402　矢川徳光：人格心理学・人格教育学の諸問題—ソ連における最近の動向 (1-3完)．教育 (334), 64-74；(335), 88-94；(336), 90-100 (9-11, 1976).

1.6 芸　術

403　バルトーク (Bartók, Bela)：バルトークの世界—自伝・民族音楽・現代音楽論，岩城　肇 訳．東京　講談社 1976. 453.

404 ブダペスト美術館収蔵伝統絵画集，ガラッシュ編，松谷　彊監修．東京　恒文社　1976. 1冊.

405 エイゼンシュテイン (Эйзенштейн, С. М.)：エイゼンシュテイン全集　4，エイゼンシュテイン全集刊行委員会訳．東京　キネマ旬報社　1976. 268.

406 芸術教育研究所：感動と認識の教育—日・ソ芸術教育シンポジウム論集．名古屋　黎明書房　1976. 303.

407 メセレール (Мессерер, А. М.)：ボリショイ・バレエの技法—メセレール教則本による基礎と展開，中本信幸訳．東京　西田書店　1976. 499.

408 佐藤恭子：メイエルホリド．東京　早川書房　1976. 320.

409 ゾートフ (Зотов, А. И.)：ロシア美術史，石黒　寛；浜田靖子訳．東京　美術出版社　1976. 489.

410 エルハルト：クシシトフ・ペンデレツキとの出会い，小原雅俊訳 (1-5完)．音楽芸術　34 (3), 24-32；34 (4), 46-50；34 (5), 39-44；34 (6), 34-38；34 (7), 48-55 (3-7, 1976).

411 岩城　肇：民俗芸術に表現されたハンガリー民族の精神風土．地理　21 (6), 9-50 (6, 1976).

412 木村　浩：ロシアの美的世界 (16-27)．学鐙　73 (1), 48-51；73 (2), 52-55；73 (3), 40-43；73 (4), 44-47；73 (5), 48-51；73 (6), 48-51；73 (7), 46-49；73 (8), 48-51；73 (9), 48-51；73 (10), 48-51；73 (11), 48-51；73 (12), 48-51 (1-12, 1976).

413 木村雅信：R. シチェドリン—現代ソヴィエト・ロシア音楽の結晶．えうゐ (3), 148-149 (6, 1976).

414 黒川欣映：海外演劇通信 (1)—幻の観客を求めて—ソヴィエトの巻．悲劇喜劇　29 (9), 76-85 (9, 1976).

415 桑野　隆：演劇の記号—ポガトゥイリョフ論．未来 (115), 2-9 (4, 1976).

416 ロシア構成主義—芸術の革命と革命 (特集)：前衛美術の萌芽—その精神風土 (二見史郎)；「物」と「構造」—絵画の死を超えて (五十殿利治)；広場をわれらのパレットに (高見堅志郎)，ロシア・アヴァンギャルドの陥穽 (松田正毅)；大いなる逆流—構成主義の挫折と以後 (宮島久雄)；沈黙の身振だけが残った (多木浩二)．美術手帖 (409), 8-116 (7, 1976).

417 坂西八郎：Alex Kulisiewicz の強制収容所歌集について．室蘭工業大学研究報告　8 (3), 225-255 (1, 1976).

418 佐々木　光：不可解なペンデレツキの発言．文化評論 (184), 232-234 (8, 1976).

419 佐藤恭子：「バラライキンとその一味」—ソビエトの風刺劇．悲劇喜劇　29 (6), 22-26 (6, 1976).

420 遠山一行：ショパン (16完)．季刊芸術　10 (1), 160-164 (1, 1976).

421 辻井英世：伝統と革新の総合—ペンデレツキ語録．音楽芸術　34 (7), 44-47 (7, 1976).

2. 社　会　科　学

2.1 政治，軍事

422 青木日出雄：ソ連戦闘機の全貌—MIG-25 から全空軍力まで．東京　ワールドフォトプレス　1976. 231.

423 コンクェスト (Conquest, Robert)：スターリンの恐怖政治　1-2，片山さとし訳．東京　三一書房　1976. 2冊.

424 藤井一行：社会主義と自由 (青木現代叢書)．東京　青木書店　1976. 270, 6.

425 ギエレク (Gierek, E.)：エドヴァルト・ギエレク—発達するポーランド，小原雅俊訳．東京　恒文社　1976. 295.

426 石堂清倫；江川　卓；菊地昌典編：ソヴェト反体制—地下秘密出版のコピー　1. 東京　三一書房　1976. 227.

427 ジョル (Joll, James)：第2インター　1889-1914　第2版，池田　清；祇園寺則夫訳．東京　木

鐸社　1697. 255, 20. 参考文献（巻末）.
428　カレンスキー（Каленский, В. Г.）；ドミトリェフ（Домитлев, А. В.）：現代のアメリカ政治学，稲子恒夫監訳．東京　青木書店　1976. 250.
429　勝田吉太郎：革命の神話—社会主義に未来はあるか．東京　講談社　1976. 313.
430　菊地昌典（等）：中ソ対立—その基盤・歴史・理論（有斐閣選書）．東京　有斐閣　1976. 326, 48.
431　菊地昌典：試練にたつ社会主義．京都　人文書院　1976. 273.
432　菊地昌典：体験的社会主義論．東京　毎日新聞社　1976. 258.
433　レーニン「帝国主義論」入門，同書編写組編：杉野明夫；佐々木信彰訳（現代中国社会思想研究叢書）．東京　長崎出版　1976. 252.（現代中国社会思想研究会上海人民出版社の翻訳）
434　ルカーチ（Lukács, G.）：ルカーチ初期著作集　3-4；政治論　1-2，池田浩士編訳．東京　三一書房　1976. 2冊.
435　マールトフ（Мартов, И. О.）：ロシア社会民主党史，加藤一郎訳．東京　新泉社　1976. 263.
436　中村賢二郎：統一戦線史序説　1914-1923—インターナショナルにおける統一と分裂の論理．東京　大月書店　1976. 254, 8.
437　中野英高：わたしの収容所群島—ドクトル・ラーゲリのダモイ．東京　ホーチキ商事出版部　1976. 164.
438　野沢　正：ミグ戦闘機—寒い国の秘密兵器（第2次世界大戦ブックス　1）．東京　サンケイ出版　1976. 203.
439　ピーク（Pieck, Wilhelm）：統一戦線への歴史的転換，阪東　宏訳（国民文庫）．東京　大月書店　1976. 196, 10.
440　サハロフ（Сахаров, А. Д.）：わが祖国—世界へのアピール，高橋　正訳．東京　徳間書店　1975. 182.
441　清水威久：ソ連の対日戦争とヤルタ協定—ヤルタ協定無効論．東京　霞ケ関出版　1976. 359.
442　神馬文男編：異国の丘—シベリヤ抑留の記．札幌　みやま書房　1976. 287.
443　スムルコフスキー（Smrkovsky, J.）：スムルコフスキー回想録—わたしは屈服しない，山崎功訳．東京　読売新聞社　1976. 238.
444　ソビエト連邦共産党：ソ連共産党規約集，公安調査庁訳．東京　公安調査庁　1976. 253.
445　ソビエト連邦共産党：ソ連邦共産党大会資料　第25回.〔東京〕外務省欧亜局　1976. 386.
446　ヴィオレンベルク（Wollenberg, Erich）：赤軍—草創から粛清まで，島谷逸夫；大木貞一訳．東京　鹿砦社　1976. 253, 内戦史年表，邦訳・邦語文献，235-248.
447　ジフコフ（Жйвков, Т.）：トドル・ジフコフ—ブルガリアを率いるジフコフ　第2演説集，宮川毅訳．東京　恒文社　1976. 151.

448　合田　優：日本海を制圧したソ連の思惑．人と日本　9 (9), 58-64 (9, 1976).
449　アニン（Anin, David）：レーニンとスパイ・マリノフスキー，直井武夫訳．自由 (199), 152-160 (7, 1976).
450　ドイッチャー（Deutscher, Tamara）：ソ連異端派についての考察，和田　俊訳，解説にかえて（山西英一）．世界 (370), 246-258 (9, 1976).
451　藤井治夫：ソ連太平洋艦隊の展開と背景．現代の眼　17 (10), 168-177 (10, 1976).
452　呉　寅　年：覇権主義の「傑作」—モスクワで出版した「中国近代史」を評す，馬場　毅；三好章訳．中国研究月報 (343), 15-28 (9, 1976).
453　ゴルシコフ（Горшков, С. Г.）：ソ連海軍・海の守り．自由　18 (11), 152-156 (11, 1976).
454　グロムイコ（Громыко, А. А.）：実施されつつある平和綱領．共産圏問題　20 (1), 27-44 (1, 1976).
455　ハーパコスキー（Haapakoski, Pekka）：フィンランドにおけるブレジネフ主義（「ニューレフト・レビュー」1974年860号）．社会主義政治経済研究所研究資料　20 (4/5/6), 1-22 (6, 1976).

456 原子林二郎：ミグ-25—共産主義を揺さぶるソ連将校の亡命．月刊自由民主 (249), 101-111 (9, 1976).

457 原子林二郎：ソ連軍人社会に生じた深い亀裂．月刊ペン 9 (11), 82-89 (11, 1976).

458 平井友義：社会主義モデルの多元化とソ連．世界 (369), 94-102 (8, 1976).

459 生田真司：ソ連・アジア・モンゴル—活発な動きをみせるソ連海軍．朝日アジア レビュー 7 (4), 190-192 (12, 1976).

460 今井義夫：「ロシア自由主義者」の誕生—カヴェーリンとチチェーリンの政治思想の形成をめぐって．一橋論叢 76 (3), 235-244 (9, 1976).

461 稲子恒夫：レーニンは「議会制度の廃止」を主張したか—訳語の選択について．窓 (16), 42-43 (4, 1976).

462 猪木正道：ソ連の“脅威”にどう対処するか．中央公論 91 (11), 56-65 (11, 1976).

463 石堂清倫：ヨーロッパ共産党会議と国際共産主義運動について (1)．社会主義政治経済研究所研究資料 20 (4/5/6), 23-29 (6, 1976).

464 伊東孝之：マルクス主義と民族問題—幻のローザ論文「民族問題と自治」に寄せて．現代思想 4 (7), 162-163 (7, 1976).

465 伊東孝之：東欧に関する連合国の戦争目的 1941-1945 (1)．スラヴ研究 (21), 189-215 (10, 1976).

466 岩島久夫：ユーゴーの全人民防衛軍．人と日本 9 (2), 180-187 (2, 1976).

467 菅 英輝：The Process of Dissent Aggregation during the Polish October Days of 1956, 北九州大学外国語学部紀要 (30), 35-56 (9, 1976).

468 金田 功：スターリニズムと粛清 (1-2)．現代の理論 13 (2), 130-140; 13 (3), 122-131 (2-3, 1976).

469 片岡信之：スターリン批判とチェコスロバキア—「プラハの春」に至る潮流．龍谷大学経済 経営論集 16 (2), 55-97 (12, 1976).

470 加藤一郎：ロシア共産党史 (1-8)．月刊労働問題 (222-228), (222), 86-92; (223), 96-101; (224), 106-111; (225), 104-109; (226), 102-107; (227), 84-89, 104-109; (228), 104-110 (5-12, 1976).

471 加藤一郎：党史研究の歴史．→〔49〕 ソビエト史研究入門．

472 勝田吉太郎：現代革命の考察．諸君 8 (4), 22-49 (4, 1976).

473 勝田吉太郎；公文俊平：社会主義は「正義」か（対談）．諸君 8 (2), 60-74 (2, 1976).

474 菊地昌典：中国のソ連「社会帝国主義論」．UP 5 (1), 18-21 (1, 1976).

475 菊地昌典：「社会主義と人間」ノート (9)—サハロフ博士の叫びに想う．公明 (167), 89-94 (2, 1976).

476 菊地昌典：社会主義と市民．潮 (200), 118-127 (2, 1976).

477 木村 汎：物質的インセンティブの限界—フルシチョフ主義の挫折 (1)．スラヴ研究 (21), 83-156 (10, 1976).

478 木村 汎：東欧的「多元主義」フルシチョフ的「全人民国家」論への挑戦．ソ連・東欧学会年報 (5), 36-68 (1976).

479 香原勝又：ソ連を震撼させたミグ25事件．人と日本 9 (11), 34-42 (11, 1976).

480 上妻隆栄：社会主義建設の戦略原則．東亜経済研究 45 (3), 1-26 (1, 1976).

481 栗栖 継：人間の顔をした社会主義とは何であったか—ムリナーシの新著の批判的紹介．現代の理論 13 (7), 83-96 (7, 1976).

482 栗栖 継：社会主義と国際語の問題についての一考察 (1-2完)．現代思想 4 (2), 129-139; 4 (3), 191-209 (2-3, 1976).

483 黒沢嘉幸：ソ連に飛び込んだ95式戦闘機．人と日本 9 (11), 50-52 (11, 1976).

484 久住忠男：ソ連の海軍戦略．内閣官房調査月報 21 (11), 16-30 (11, 1976).

485 中村平八：マルクス主義の共産主義社会論．→〔602〕 現代ソ連の経済と産業．

486　中西　治：スターリン以後のソ連邦．→〔49〕ソビエト史研究入門．
487　西村文夫：ソ連の政治と経営エリート．→〔602〕現代ソ連の経済と産業．
488　落合忠士：共産主義の多様化と将来—ナショナリズムの一般化の視座から．ソ連・東欧学会年報 (5), 84-104 (1976).
489　佐々木一郎：レーニンの階級闘争論から—大衆的自覚化・組織化と階級関係の変動．科学と思想 (19), 516-534 (1, 1976).
490　佐藤栄一：戦後ソ連の兵器輸出—「第3世界」への輸出との関連で．→〔602〕現代ソ連の経済と産業．
491　佐藤栄一：ソ連の軍事戦略と海上兵力—海洋国家ソ連の登場．国際問題 (194), 38-49 (5, 1976).
492　佐藤経明：常識的な答案を出したソ連新路線．公明 (170), 162-164 (5, 1976).
493　沢田于一郎：コミンフォルムとチトーイズム発生に至る第2段階．神戸外大研究年報 (13), 75-121 (3, 1976).
494　沢田于一郎：コミンフォルムとチトーイズムの発生—「ソ連支配型共産主義思想」と「民族自主独立型共産主義思想」の相克．ソ連・東欧学会年報 (5), 20-35 (1976).
495　世界の共産党（特集）：ユーゴ—チトー後のユーゴ（高屋定国）；東ヨーロッパ—ソ連の監視強まる東欧（鶴岡重成）；ソ連—ブレジネフ農政の泣きどころ（中沢　孝）．月刊労働問題（臨時増刊），86-123 (7, 1976).
496　志水速雄：共産主義多様化の出発点—フルシチョフ時代再考．ソ連・東欧学会年報 (5), 69-83 (1976).
497　清水隆雄：ワルシャワ条約機構の戦術空軍力．レファレンス (306), 101-106 (7, 1976).
498　霜田美樹雄：社会主義国の政治文化．早稲田社会科学 (15), 53-88 (2, 1976).
499　ソ連軍極東配備推定図．中央公論　54 (11). 132 (11, 1976).
500　ソ連の領土政策—委託研究報告紹介．内閣官房調査月報　21 (4), 18-32 (4, 1976).
501　ソビエト反体制知識人精神病院強制収容の実態—精神医学的テロの犠牲者レオニード・プリューシチに捧ぐ，ウラジミール・ブコフスキー；セミョン・グルズマン著，高橋　正訳．中央公論　54 (6), 225-240 (6, 1976).
502　鈴木　肇：終末期に入ったブレジネフ政権—第25回党大会を迎えるソ連の現状．革新 (67), 158-164 (2, 1976).
503　高木桂蔵：西欧に裏切られたソ連共産党．人と日本　9 (5), 92-98 (5, 1976).
504　竹中重寿：ソ連共産党第25回大会について—その特色と内外政策の諸課題．内閣官房調査月報 21 (7), 1-16 (7, 1976).
505　谷川良一：第25回ソ連邦共産党大会の開催について—党の新たな人的布陣を含む．外務省調査月報　17 (2). 1-32 (9, 1976).
506　谷川良一：ソ連邦における社会主義的民主主義と自由 (1-2)—民主化と自由化について．共産圏問題　20 (2), 1-24; 20 (3), 58-73 (2-3, 1976).
507　溪内　謙：現代社会主義の省察 (1-5)．世界 (362), 108-122; (364), 107-119; (365), 179-196; (373), 131-146; (374), 126-142 (1; 3-4; 12, 1976; 1, 1977).
508　寺谷弘壬：ブレジネフ後のソ連．人と日本　9 (2), 160-168 (2, 1976).
509　綱川政則：1938年のいわゆる五月危機について—チェコスロヴァキア政府の態度を中心に．東京学芸大紀要　第3部門 (28), 133-146 (1, 1977).
510　和田静夫：訪ソ国会議員代表団報告．月刊社会党 (239), 141-152 (11, 1976).
511　矢吹満男：「二つの道」論と「帝国主義論」—レーニンの軍事的＝封建的帝国主義規定との関連において．土地制度史学 (73), 1-24 (10, 1976).
512　矢吹　晋：毛沢東・スターリンを語る—「選集」・「万歳」から．現代思想　4 (9), 208-220 (9, 1976).
513　矢吹　晋：毛沢東 vs. フルシチョフ．書斎の窓 (259), 11-17 (12, 1976).

514 山口正之：報告　アメリカ帝国主義と中・ソの帝国主義論．季刊　科学と思想 (20), 621-629 (4, 1976).

515 山口俊明：ソ連から国外追放されて．文芸春秋　54 (7), 268-278 (7, 1976).

516 依田道子：アルバニアにおける社会主義建設の課題—第4次5カ年計画 (1966-70) 期，第5次5カ年計画 (1971-75) 期を中心に．社会科学討究　22 (1), 19-32 (7, 1976).

517 ザロドフ (Зародов, К.)：革命闘争のレーニン的戦略及び戦術—ヴ・イ・レーニン著「民主主義革命における社会民主党の二つの戦術」の70周年記念によせて．共産圏問題　20 (2), 48-53 (2, 1976).

R-518 木村明生：中沢孝之著「ブレジネフ体制のソ連」．共産主義と国際政治　1 (1), 108-113 (9, 1976).

R-519 斎藤義博：真実の共産主義を理解するために—A．ドルガン著「収容所群島のアメリカ人」，W．レオンハルト著「戦慄の共産主義」．東北学院大学論集　経済学 (70), 109-121 (3, 1976).

2.2 国際関係

520 菊井礼次：現代国際関係とソ連外交理論．京都　法律文化社　1976. 250.

521 尾上正男：現代ソ連外交論覚書．京都　晃洋書房　1976. 243.

522 ソ連邦の外交，浅川彰三訳．モスクワ　プログレス出版所 (東京　ナウカ) 1976. 414.

523 青木一能：ブレジネフ政権の対外戦略と諸問題．世界経済　31 (4), 31-39 (4, 1976).

524 米中ソ '77の知られざる国際戦略，中央公論外信部 (座談会)．中央公論　92 (1), 188-196 (1, 1976).

525 江副敏生：「過渡期」についての「中ソ論争」再論 (1)．商学論纂 (中大)　17 (3), 35-70 (9, 1975).

526 藤井貞文：クリミヤ戦役直前に於ける日魯関係．国学院雑誌　77 (3), 16-31 (3, 1976).

527 藤村　信：大いなる分極—クレムリンと西欧共産党．世界 (364), 75-106 (3, 1976).

528 袴田茂樹：ソビエト人の意識と中ソ対立．→〔430〕 中ソ対立.

529 浜口　学：フランス左翼連合 (le Cartel des gauches) の対ソ政策．国学院大学紀要 (14), 67-104 (3, 1976).

530 原子林二郎：毛死後の中ソ関係．自由　18 (11), 61-67 (11, 1976).

531 平田重明：社会主義国際関係と CMEA．→〔596〕 コメコン=CMEA 体制の展開.

532 星　祐一：米・ソ　デタントの新局面．人と日本 (913), 34-41 (3, 1976).

533 伊藤一彦：日ソ領土問題に対する中国の関心．レファレンス (307), 103-111 (8, 1976).

534 井沢信久：モンゴルと隣人・中ソ．朝日アジアレビュー (26), 158-163 (6, 1976).

535 菅　英輝：A note on the causes of the Soviet-Yugoslav dispute of 1948. 北九州大学外国語学部紀要 (28), 69-89 (1976).

536 木戸　翁：コミンテルンとバルカン民族問題 (1)．スラヴ研究 (21), 157-187 (10, 1976).

537 菊地昌典：中ソ対立の理論的諸問題．→〔430〕 中ソ対立.

538 木村明生：着実に得点かせぐソ連外交—重点を欧州からアジアへ．コリア評論　26-41 (8, 1976).

539 木村明生：中ソ抗争—2国関係から国際舞台へ．世界 (369), 133-147 (8, 1976).

540 木村明生：ソ連・アジア・モンゴル—対外姿勢を硬化するソ連；第25回党大会の示唆するもの．朝日アジアレビュー　7 (2), 98-100 (6, 1976).

541 小林文男：1950年代中ソ関係の一断面—中国のソ連留学生派遣問題を中心に．アジア経済　17 (1/2), 31-41 (2, 1976).

542 河野健二：ソ連と中国．現代思想　4 (9), 115-116 (9, 1976).

543 三尾忠志：ソ連における第三世界研究の現状．新防衛論集　4 (1), 57-84 (6, 1976).

544 百瀬　宏：第2次大戦中のソ連のフィンランド政策—戦後への展望に寄せて (2)．スラヴ研究

(21), 217-232 (10, 1976).

545　ラーナン，ウリ：エジプトとソ連の抗争—ナセルとフルシチョフ時代からサダトとブレジネフ時代まで，竜川義人訳．自由 (203), 68-79 (11, 1976),

546　清水威久：北方領土問題に関するソ連側の最新の基本的見解．共産圏問題　20 (1), 45-50 (1, 1976).

547　宍戸　寛：中ソ対立の歴史的経過．→〔430〕 中ソ対立．

548　ソ連・アルバニア論争の一断面（資料），共産主義と国際政治　1 (1), 96-107 (9, 1976).

549　高野　明：ソ連における北方領土研究によせて．史観 (95), 14-28 (3, 1976).

550　寺谷弘壬：中ソ対立の行方と日本．人と日本　9 (12), 51-58 (12, 1976).

551　植田隆子：米ソ国交樹立に関する一考察—ソ連側の対応を中心に．国際関係学研究 (2), 19-37 (2, 1976).

552　漆山成美：中ソ対立と日本．京都産業大学論集　6 (1), 40-55 (1, 1977).

553　渡辺　修：中ソの谷間のインドシナ．朝日アジアレビュー　7 (2), 28-33 (6, 1976).

554　矢吹　晋：中国人のロシア・ソ連像．→〔430〕 中ソ対立．

555　山内一男；佐久間邦夫：中ソ対立の下部構造．現代の眼　17 (7), 82-105 (7, 1976).

R-556　青木一能：カレント・ヒストリー誌 1976 年 3 月号—「東欧諸国」特集号—の紹介．世界経済 31 (10), 40-60 (10, 1976).

2.3 法　　律

557　ハルフィナ (Халфина, P. O.)：ソ連における個人的所有権，佐藤哲雄訳．モスクワ　プログレス出版（東京　ナウカ） 1976. 228.

558　マルクス主義法学講座　1. マルクス主義法学の成立と発展（日本）．東京　日本評論社　1976. 320.

559　宮沢俊義編：世界憲法集　第2版（岩波文庫）．東京　岩波書店　1976. 386.

560　トウマーノフ (Туманов, B. A.)：現代ブルジョア法思想—基本的諸学説のマルクス主義的評価，プログレス出版所訳．モスクワ　プログレス出版所（東京　ナウカ） 1976. 463.

561　浅井幸男：ハンガリー社会主義憲法史序説 (1)．岐阜経済大学論集　10 (3), 1-36 (9, 1976).

562　クレイトン (Clayton, Y.)：精神医学—ソ連邦における法と異端，東条仲一郎訳．法と人権 (10), 61-74 (6, 1976).

563　藤田　勇：ソビエト社会主義共和国連邦憲法．→〔559〕 世界憲法集．

564　福島正夫：社会主義の家族法原理と諸政策．→〔755〕 家族—政策と法　5.

565　Heath, A. J.：ソ連邦への工業製品販売．石川惣太郎訳，国際商事法務　4 (10), 16-27 (10, 1976).

566　稲子宣子：ソ連の養子制度．→〔755〕 家族—政策と法　5.

567　稲子恒夫；鈴木輝二：ポーランド人民共和国憲法．→〔559〕 世界憲法集．

568　稲子恒夫：ソビエト法研究．→〔558〕 マルクス主義法学講座　1.

569　入江通雅：平和の条件—そのための基本的人権．自由　18 (1/2), 18-27 (2, 1976).

570　入江通雅：ミグ25事件の法的諸問題．産大法学　10 (3), 1-15 (12, 1976).

571　石井五郎：〔東ドイツ〕選挙法．外国の立法　15 (6), 291-300 (11, 1976).

572　伊藤　進；Fuderle, Thomas：ドイツ民主共和国（東独）の新私法典について．民商法雑誌　74 (4), 610-629 (7, 1976).

573　岩淵節雄：アサイラム権とソビエト法理．法政論集（北九州大）　4 (1), 1-20 (7, 1976).

574　クィチャノフ (Кычанов, Э. И.)：西夏の社会体制に関する新史料，加藤九祚訳．立命館文学 (367/368), 119-123 (2, 1976).

575　松下輝雄：ソ連の憲法問題．ソ連・東欧学会年報 (5), 146-161 (1976).

576 道広泰倫：ソビエトの保険法 (4). 山口大学教養部紀要 (10), 51-70 (10, 1976).
577 森下敏男：初期ソビエトにおける憲法理論の展開 (3)—諸概念の構成をめぐって. 神戸法学雑誌 25 (3/4), 314-370 (3, 1976).
578 新美治一：ソビエト・ロシア共和国の国家構造をめぐるレイスネル・スターリン論争—1918年ソビエト・ロシア共和国憲法総則案の起草過程について. 名大法政論集 (68), 1-78 (10, 1976).
579 関 哲夫：ソ連邦における行政行為の司法審査 (1-2). 法律時報 48 (12), 73-82; 48 (13), 251-257 (11-12, 1976).
580 篠原敏雄：ドイツ民主共和国新憲法典における新しい不法行為規定について. 公害研究 5 (4), 57-60 (4, 1976).
581 ソ同盟及び同盟構成共和国労働立法の基礎 (2完), 三宅 優訳. 熊本商大論集 (48), 57-73 (4, 1976).
582 ソ連邦及び連邦共和国土地立法の基礎, 三宅 優訳. 熊本商大論集 (49), 141-164 (7, 1976).
583 鈴木輝二：ポーランド人民共和国の家族法. →〔755〕 家族—政策と法 5.
584 鈴木輝二：社会主義諸国間の家族関係に関する法的共助. →〔755〕 家族—政策と法 5.
585 上田 寛：クルイレンコ＝ヴィシンスキー論争. 法学論叢 (京大) 98 (4), 43-67 (1, 1976).
586 上野達彦：ブルジョア犯罪構成要件論批判—「ブルジョア犯罪構成要件論批判からソビエト犯罪構成要件論への転換過程」序説. 愛知大学国際問題研究所紀要 (59), 61-91 (9, 1976).
587 潮見俊隆：ドイツ民主共和国の法と市民. 図書 (319), 44-50 (3, 1976).
588 潮見俊隆：ハンガリーの結婚と離婚. 図書 (327), 8-15 (11, 1976).
589 和田春樹：日露逃亡犯罪人引渡条約付属秘密宣言書. 社会科学研究 (東大) 27 (4), 86-116 (2, 1976).
590 鷲見一夫：海洋環境の保全と国家の責任—ヤンコフの報告書の検討. 横浜市立大学論叢 社会科学系列 27 (3/4), 181-212 (3, 1976).
591 山本俊朗：スペランスキーとロシア法典. 社会科学研究 (早大) 22 (1), 1-18 (1, 1976).
592 横山晃一郎：ソビエト型検察官と大陸型検察官—比較法学会シンポジウム「検察官」覚え書. 法政研究 (九大) 43 (2), 50-70 (6, 1976).
593 横関 昇：ロシア共和国における失踪事件の処理—法的基準と手続. 亜細亜法学 11 (1), 106-117 (10, 1976).
594 藤田 勇：ヴェ・ア・トゥマーノフ, 現代ブルジョア法思想—基本的諸学説のマルクス主義的評価. 窓 (17), 54-56 (6, 1976).

2.4 経済, 統計

595 芦田文夫：社会主義的所有と価値論. 東京 青木書店 1976. 306.
596 平田重明編：コメコン＝CMEA 体制の展開—社会主義経済統合の論理と現実 (アジア経済調査研究双書 235). 東京 アジア経済研究所 1976. 246.
597 経済理論学会：現代資本主義と恐慌 (経済理論学会年報 13). 東京 青木書店 1976. 247.
598 経済社会学会：経済体制と自由 (経済社会学年報 1). 東京 新評論 1976. 221.
599 木原正雄；長砂 実編：現代日本と社会主義経済学 1-2. 東京 大月書店 1976. 2冊.
600 コメコン諸国統計年鑑 1975年度, コメコン書記局編, ジャパン・プレス・サービス訳. 東京 ジャパン・プレス・サービス 1976. 493, (『経済相互援助会議加盟諸国統計年鑑』の日本語版).
601 モーイェフ (Моев, В. А.); グルシコフ (Глушков, В. М.): コンピュータと社会主義, 田中雄三訳 (岩波新書). 東京 岩波書店 1976. 224.
602 西村文夫；吉田靖彦編：現代ソ連の経済と産業 (現代ソ連論 1). 東京 日本国際問題研究所 1976. 612.

603　小野一郎；篠原三郎編：社会主義的所有と管理（立命館人文科学研究叢書　1）．東京　有斐閣　1976. 278.
604　斎藤　稔：社会主義経済論序説．東京　大月書店　1976. 251.
605　シク（Sik, Ota）：新しい経済社会への提言―もう一つの可能性を求めた第三の道，篠田雄次郎訳．東京　日本経営出版会　1976. 261.
606　ソビエト連邦・貿易省計画経済局：ソ連貿易統計年鑑　1974年度，国際事情研究会訳．東京　ジャパン・プレス・サービス　1976. 314.
607　和田敏雄：ソビエト計画経済の構造と機能（拓殖大学研究叢書　社会科学　1）．東京　拓殖大学研究所　1976. 379.
608　粟飯原　稔：物的生産部門の構造―ソ連経済改革前の変動について．社会科学研究（62），87-108（7, 1976）.
609　粟飯原　稔：生産手段の社会主義的所有関係―ソ連経済改革での理論と方法論．社会科学討究（60），173-198（1, 1976）.
610　青木国彦：農業共同組合の社会主義的高度化の一方策―東ドイツの場合．→〔597〕　現代資本主義と恐慌．
611　荒又重雄：帝政ロシア「工場監督官報告集成」分析（4-5）．経済学研究（北大）26（1），33-58；26（2），37-75（3；6, 1976）.
612　荒田　洋：第1次5カ年計画期．→〔49〕　ソビエト史研究入門．
613　有賀雄三：ソ連・東欧諸国の経済成長に必要な条件．内閣官房調査月報　21（10），62-65（10, 1976）.
614　芦田文夫：社会主義的「所有論」から「管理論」へ．→〔603〕　社会主義的所有と管理．
615　ドイツ民主共和国の統一的講義要項：「社会主義政治経済学」，大橋昭一訳．商学論集（関大）21（5），62-85（12, 1876）
616　ドゥトキン（Дудкин, Л. М.）；ホミヤコフ（Хомяков, В. А.）；シチェニコフ（Щенников, Б. А.）：生産物間バランスモデルにおける集合について―マクロ経済のモデル化，永田達郎；永井　博訳．熊本商大論集（50），77-106（2, 1977）.
617　藤井和夫：ポーランド王国における繊維工業の成立―ウッジ地帯の労働構成（1815-1870）．経済学研究（関西学院）（9），65-76（11, 1976）.
618　藤野幸二：第10次5カ年計画以降のシベリア・極東の総合開発について．共産圏問題　20（1），1-26（1, 1976）.
619　長谷川信彦：第10次5カ年計画とソ連経済（1-5完）．調査月報（大蔵省）65（6），56-63；65（7），77-86；65（9），71-93；65（11），64-74；65（12），57-68（6-7；9；11-12, 1976）.
620　長谷川信彦：転換期のソ連貿易．国際金融（573），12-16（15, 10, 1976）.
621　平田重明：CMEA の成立と発展の史的構図．→〔596〕　コメコン＝CMEA 体制の展開．
622　肥前栄一：独露の経済史的比較の基礎視角―方法論的試論．西洋史研究（5），153-164（11, 1976）.
623　池田博行：シベリアにおける人口動態（資料）．商学研究所年報（専大）（1），177-267（3, 1976）.
624　池田博行：ソ連邦の人口統計から―各共和国およびモスクワ，レニングラード両市について（資料）．専修商学論集（20），207-252（2, 1976）.
625　石津英雄：ハンガリーの経済改革―その特徴と推移（2）．香川大学経済論叢　49（1），1-22（4, 1976）.
626　岩林　彪；建林隆喜：経済統合の理論と統合発展のメカニズム．→〔596〕　コメコン＝CMEA 体制の展開．
627　岩林　彪：ユーゴ型社会主義の根本問題（1）―「社会的所有」概念の検討．松山商大論集　27（3），53-74（8, 1976）.
628　岩崎俊夫：ソ連邦部門連関バランスの思想的系譜．統計学（31），14-28（9, 1976）.

629 金井晃一：東欧農産物貿易の展開と国際分業．→〔596〕 コメコン＝CMEA 体制の展開．

630 金重 紘：「欧州の中国」アルバニアの現実—あいつぐ人事移動，停滞する経済．革新 (67), 56-65 (2, 1976).

631 片岡信之：チェコスロバキアにおける集権型経済システムの成立過程．龍谷大学経済経営論集 15 (3/4), 150-197 (3, 1976).

632 片岡信之：50-60 年代チェコスロバキア集権型経済システムの構造的特質と欠陥．龍谷大学経済経営論集 16 (1), 89-122 (9, 1976).

633 加藤 寛：共産主義経済の多様化と将来．ソ連・東欧学会年報 (5), 2-19 (1976).

634 川合 研：ローザ・ルクセンブルク「資本蓄積論」について—資本蓄積の困難性を中心に．経済学雑誌 75 (1), 55-71 (1, 1976).

635 川浦孝恵：ソ連における消費生活．青山社会科学紀要 5 (1), 25-41 (9, 1976).

636 川浦孝恵：ソ連の商業と消費生活．→〔602〕 現代ソ連の経済と産業．

637 金 錘碩：東ドイツにおける過渡期と「発展した社会主義社会」論．海外事情研究 4 (1), 1-15 (3, 1976).

638 小檜山政克：最近のソ連学界における「経済的社会構成体」の研究．立命館経済学 25 (2/3), 215-227 (8, 1976).

639 小間富蔵：国家資本の理論と国家的所有 (2)．阪南論集 11 (3), 69-87 (3,1976).

640 小山洋司：ソローキン「才能ある理論家にして計画化の組織者—エス・ア・ヴォズネセンスキー生誕 70 周年によせて」について．歴史評論 (310), 96-100 (2, 1976).

641 国島友太郎：ソ連海運の進出．トランスポート 26 (8), 17-22 (8, 1976).

642 見野貞夫：価格規定と社会的重要度論—ソビエトロシア 20 年代の文献から．山口経済学雑誌 26 (1/2), 203-223 (7,1976).

643 見野貞夫：ポリティカルエコノミーの地平をこえて—ソビエトロシア 20 年代の争点．東亜経済研究 45 (4), 83-104 (11, 1976).

644 森 章：ソビエトにおける新減価償却率について．明大商学論叢 59 (1/2), 113-143 (8, 1976).

645 モフショヴィッチ (Мовшович, С. М.)；オフシィェンコ：最適計画モデルにもとづく標準効率の算定について，吉村 弘訳．山口経済学雑誌 26 (3/4), 135-149 (11, 1976).

646 成田幸範：ソ連における生活水準計画指標にかんする問題点．立教経済学論叢 (10), 81-100 (11, 1976).

647 丹羽春喜：ソ連における「擬似価格」の体系と貿易構造．→〔602〕 現代ソ連の経済と産業．

648 小川和男：ソ連の貿易構造と東西経済交流．→〔602〕 現代ソ連の経済と産業．

649 小川和男：ソ連の資源開発環境問題．→〔602〕 現代ソ連の経済と産業．

650 小串克忠：中央アジアの経済発展と民族問題．ソ連・東欧学会年報 (5), 106-121 (1976).

651 奥田 央：ソビエト初期経済建設期における「農工結合体」理念の展開と消滅．社会科学研究（東大） 27 (4), 117-167 (2, 1976).

652 小野一郎：社会主義経済管理における民主主義の原理とその展開の構造について．立命館経済学 25 (2/3), 33-66 (8, 1976).

653 小野一郎：ソ連社会主義の発展段階規定の系譜と「発達した社会主義社会」段階規定．→〔603〕 社会主義的所有と管理．

654 大津定美：社会主義経済の分権モデルと政治システム—W. Brus 氏の近著によせて．経済研究（一橋大） 27 (4), 374-378 (10, 1976).

655 貞国孝昭：インフレーションと経済成長—シドロウスキー・モデルの検討．福岡大学経済学論叢 20 (4), 423-434 (2, 1976).

656 酒井晨史：東ドイツ経済と東西両ドイツ．→〔596〕 コメコン＝CMEA 体制の展開．

657 佐藤経明：社会主義国経済の成長と課題．東洋経済 (3937), 81-89 (6, 5, 1976).

658 1976-1980 年のソ連国民経済発展の基本方針．海外経済月報 1976 (8), 80-134 (8, 1976).

659　シャルコフ (Шарков, A. M.)：第10次5カ年計画におけるシベリアおよび極東開発問題—地域産業複合体を形成（特別講義），仲　弘訳．日本経済研究センター会報 (286), 54-57 (15, 12, 1976).
660　資源問題研究会：ソ連における交易条件の変化—資源・石油危機の時期「1970-74年」をめぐって (1-2)．内閣官房調査月報　21 (7), 17-39; 21 (8), 17-27 (7-8, 1976).
661　白井久也：ソ連・アジア・モンゴル—ソ連経済の新局面．朝日アジアレビュー　7 (1), 126-128 (3, 1976).
662　副田満輝：社会主義と商品生産—社会主義経済学の「商品関係」論に関する批判的考察．海外事情研究　4 (2), 1-32 (9, 1976).
663　ソ連東欧諸国の経済動向（解説）．三菱銀行調査 (260), 20-27 (11, 1976).
664　杉本昭七：貿易からみた CMEA の国際分業構造．→〔596〕コメコン＝CMEA 体制の展開．
665　角谷登志雄：共産主義的所有と管理・組織—科学的社会主義の古典における諸規定とその展開．→〔603〕社会主義的所有と管理．
666　角谷登志雄：史的唯物論と社会主義への移行法則．立命館経営学　15 (1), 1-56 (5, 1976).
667　鈴木輝二：CMEA の組織的発展にみる社会主義国際経済法の形成．→〔596〕コメコン＝CMEA 体制の展開．
668　対立する中・ソの社会主義像—所有・管理・分配を中心に（座談会）：小島晋治；佐藤経明；矢吹　晋；安東仁兵衛．現代の理論　13 (7), 120-149 (7, 1976).
669　高崎譲治：マルクスの市民社会の理論と歴史 (2)—「ザスーリッチへの手紙」における「資本論」修正の問題．関東学院大学大学院経済学研究科紀要 (2), 1-19 (5, 1976).
670　玉野井芳郎：中国の道，ソ連の道．現代思想　4 (9), 80-86 (9, 1976).
671　竹浪祥一郎：70年代前半のソ連・東欧経済．経済経営論集（桃山学院大）18 (3), 109-125 (12, 1976).
672　玉村博巳：国有化の性格規定について—「経済的必然性」の理解と適用を中心に．立命館経営学 15 (1), 141-161 (5, 1976).
673　谷江幸雄：ブルスの社会主義的所有論（海外経済論調）．経済評論　25 (10), 134-139 (9, 1976).
674　谷江幸雄：ドイツ社会主義農業における「差額地代」（海外経済論調）．経済評論　25 (2), 134-139 (2, 1976).
675　谷江幸雄：社会主義的所有論の新展開．エコノミア (55), 113-136 (12, 1975).
676　田中寿雄：低成長へ変容するソ連経済—度重なる農業不振の重圧．貿易と関税　24 (3), 28-31 (3, 1976).
677　田中良明：カール・ラデックの帝国主義論．経済学雑誌　75 (3), 26-47 (9, 1976).
678　暉峻衆三：ユーゴスラヴィアの経済と農業（2完）．経済 (143), 219-235 (3, 1976).
679　富森孜子：社会主義的工業化と賃金理論—1920年代ソ連邦の諸論稿を中心として．経済と経営（札幌大）6 (2), 23-49 (1, 1976).
680　外山　忠：資本輸出と国際独占体—レーニンの把握について．経済学研究（北大）26 (4), 203-245 (1, 1976).
681　土屋慶之助：レーニンのアメリカ資本主義研究—アメリカ資本主義の特徴によせて．静岡大学短大法経論集 (38), 1-34 (11, 1976).
682　上野昌美：ネップ初期の〈鋏状差〉をめぐる党内論争—第13回党協議会を中心に．経済学研究（北大）26 (4), 345-368 (11, 1976).
683　和田敏雄：ソビエト計画経済の機能 (3)．拓殖大学論集 (104/105), 233-282 (3, 1976).
684　渡部経彦：コメコン—社会主義的経済統合．世界 (371), 180-186 (8, 1976).
685　八雲香俊：シベリアの産業開発と交通問題 (1)．国士館大学政経論叢 (24), 21-51 (6, 1976).
686　山本義彦：ふたたびロシア語版「経済学批判要綱」について (2)．法経研究（静岡大）24 (2), 1-40 (2, 1976).
687　安平哲二：ソ連経済の危機と第10次5カ年計画の展望．新防衛論集　4 (2), 29-63 (9, 1976).

688 安平哲二：ソ連経済改革の新動向．→〔602〕 現代ソ連の経済と産業．
689 吉田靖彦：最適体制とソ連経済．→〔602〕 現代ソ連の経済と産業．
690 吉田靖彦：ソ連経済の成長過程．→〔602〕 現代ソ連の経済と産業．
691 吉田靖彦；福原文雄：ソ連農業と技術進歩—計量モデルによる分析．ソ連・東欧学会年報 (5), 122-145 (1976).
692 吉田良衛：北朝鮮の対ソ貿易—1974年．コリア評論 19 (174), 30-37 (6, 1976).
693 吉田良衛：北朝鮮の対ソ貿易概観—1955-70年．コリア評論 18 (170), 13-24 (2, 1976).
R-694 平泉公雄：「前期的社会主義」の範疇について—佐藤経明著「現代の社会主義経済」に関連しつつ．アジア経済 17 (7), 62-70 (7, 1976).
R-695 小山洋司：A. A. バルソフ著「価値視点からみた都市と農村との間の交換のバランス」(1-2完)．アジア経済 17 (10), 78-92; 17 (11), 72-85 (10-11, 1976).
R-696 正村公宏：岩田昌征著「社会主義の経済システム」を読んで．経済評論 25 (4), 105-117 (4, 1976).
R-697 丹羽春喜：岩田昌征著「社会主義の経済システム」．季刊理論経済学 27 (3), 237-239 (12, 1976).
R-698 鈴木重靖：T. キッシュ監修；名島修三訳「国際論争社会主義経済総合—付・わが国における関連論争」を読んで．世界経済評論 20 (2), 84-88 (2, 1976).
R-699 竹浪祥一郎：野々村一雄「コメコン体制—社会主義的国際経済協力の研究」．経済研究（一橋）27 (4), 382-384 (10, 1976).
R-700 富岡庄一：有馬達郎著「ロシア工業史研究」．農業経済研究 48 (1), 44-47 (6, 1976).

2.5 経営，労働

701 藤田 整：ソヴェト経済における個人副業経営—K. E. ヴェーデキンの著書によせて．経済学雑誌 74 (6), 20-50 (6, 1976).
702 福田 亘：ソヴェト工業企業の行動モデル．国民経済雑誌 133 (1), 77-92 (1, 1976).
703 井手啓二；チェルカフスキ (Czerkawski, K.)：ヨーロッパの社会主義における企業管理制度改革．立命館経営学 15 (5/6), 91-127 (3, 1977).
704 井手啓二：社会的所有と社会主義企業管理制度—ハンガリーを中心に．→〔612〕 社会主義的所有と管理．
705 飯盛信男：生産的労働論の展開 (2)．佐賀大学経済論集 8 (3), 99-129 (3, 1976).
706 石川晃弘：社会主義企業における従業員福祉の展開—チェコスロヴァキアの事例．日本労働協会雑誌 18 (4), 12-21 (4, 1976).
707 石川晃弘：ソ連における労働の変化と労働者の階層変動．→〔602〕 現代ソ連の経済と産業．
708 石川晃弘：東欧における経営参加と自主管理．ジュリスト (625), 54-59 (15, 11, 1976).
709 海道 進：経営労働論の研究内容 (2)—労働ノルマ論．経営学・会計学・商学研究年報（神戸大）(22), 127-240 (8, 1976).
710 海道 進：社会主義工業企業の財務計画 (3)—収支バランスの構成内容について．国民経済雑誌 133 (1), 19-39 (1, 1976).
711 川浦孝恵：ソ連における労働生産性向上運動—所謂シチョキノ方式について．青山社会科学紀要 4 (2), 39-52 (3, 1976).
712 小中陽太郎：労働者による労働者のための教育—ユーゴの労働学校を訪ねて．月刊労働問題 (220), 66-71 (3, 1976).
713 マルコヴィッチ, M.：自主管理の基本的諸論点，杉山茂夫訳．現代の理論 13 (6), 55-63 (6, 1976).
714 宮坂純一：ソ連邦の科学的労働組織 (HOT) の総合的研究をめざして．六甲台論集 22 (4), 13-24 (1, 1976).

715　成瀬継男：コルホーズの会計制度—ソビエトにおける会計と財務の実態（2）．経済と経営（札幌大）6（2），51-74（1，1976）．
716　大島国雄：日本におけるソ連経営研究の歩み—社会主義経営学会設立大会記念講演．青山経営論集　11（2），45-59（9，1976）．
717　篠原三郎：管理技術の継承論と史的唯物論．→〔603〕社会主義的所有と管理．
718　白井瑛一：社会主義企業の当面する問題．岐阜経済大学論集　10（3），71-90（9，1976）．
719　副島種典：労働者統制の本質—訳語の問題に関連して．窓（17），40-41（6，1976）．
720　渡辺俊三：レーニンの中小企業論．立教経済学論叢（10），151-177（11，1976）．

2.6 産　業

721　北方圏調査会：シベリア・極東の交通・運輸の現況．札幌　北方圏調査会　1976. 212.
722　中山弘正：現代ソヴェト農業—フルシチョフ農政と位階制的職種階層．東京　東京大学出版会　1976. 329, 9.
723　日ソ農業技術交流事業に基づく訪ソ農業視察団報告　21-22．東京　農林省経済局国際部　1976. 2冊.
724　ラチコフ（Рачков, Б. В.）：ソ連から見た石油問題—石油をめぐる国際政治の内幕，滝沢一郎訳．東京　サイマル出版会　1976. 287.
725　飼料穀物をめぐる米国とソ連—畜産問題研究会報告（資料　193）．東京　国際食糧農業協会　1976. 150.
726　ソ連・東欧貿易会：ソ連の農林業と農産貿易　1976年．東京　1976. 176.
727　ソ連・東欧貿易会：ソ連・東欧の化学工業　1976年．東京　1976. 176.

728　安保隆夫：ソ連の穀物大量買い付けと米国農産物輸出政策．レファレンス　26（1），13-38（1，1976）．
729　有賀雄三：ソ連・東欧の鉱物資源の需給関係．内閣官房調査月報　21（9），38-45（9，1976）．
730　米ソの穀物協定．経済セミナー（257），78-80（6，1976）．
731　米ソ穀物協定締結の背景—米国の対ソ穀物輸出をめぐる動向〔委託研究報告紹介〕．内閣官房調査月報　21（2），65-74（2，1976）．
732　袴田茂樹：ソ連・東欧の食糧事情と庶民の食生活（海外労働事情）．日本労働協会雑誌　18（10），59-63（10，1976）．
733　飯田富士雄：ソ連農業の集団化について—集団化の物質的基礎，とくにエム・テ・エスの役割についてのダニーロフの見解をめぐって．農業経済論集（26），67-79（10，1976）．
734　野々村一雄：ソ連の工業基地を見る．窓（16），12-17（4，1976）．
735　佐藤健雄：ソ連農業の回顧と展望．問題と研究　5（6），75-79（3，1976）．
736　篠田靖子：アメリカ農業と米ソ穀物協定．世界経済　31（1），20-24（1，1976）．
737　ソ連の穀物輸入長期化をめぐる諸問題—委託研究報告紹介．内閣官房調査月報　21（6），1-20（6，1976）．
738　寺村鉄三：ソ連・東欧経済と穀物問題—その需給動向をめぐって．世界経済評論　20（4），58-66（4，1976）．
739　ツィメク（Цымек, А. А.）：ソ連邦の林業地区，細川隆雄訳・紹介．林業経済　29（8），22-30（8，1976）．
740　内嶋善兵衛：ソ連の気候—農業気候を中心として．農業構造研究（108），68-91（7，1976）．
741　上野三郎：ソ連石油生産の動向と輸出・入政策（1-2）．内閣官房調査月報　21（8），28-44；21（9），46-57（8；10，1976）．
742　鵜野公郎：ソ連の農業問題，→〔602〕現代ソ連の経済と産業．
743　運輸調査局，外国部：ソ連鉄道の近況（海外交通資料）．運輸と経済　36（8），79-82（8，1976）．

2.7 金融，財政

744 Filimonov, B. I.：ソ連の地方予算制度とその問題点，長谷川信彦訳．調査月報（大蔵省）65 (8), 31-59 (8, 1976).
745 長谷川信彦：ソ連の1976年度予算．調査月報（大蔵省） 65 (4), 12-24 (4, 1976).
746 長谷川信彦：ソ連の取引税制度 (1)．調査月報（大蔵省） 65 (2), 55-69 (2, 1976).
747 長谷川信彦：ソ連の予算制度 (1-4完)．調査月報（大蔵省） 65 (2), 88-104; 65 (3), 98-104; 65 (4), 81-98; 65 (5), 91-115 (2-5, 1976).
748 岩城成幸：モスクワ人民銀行と北欧商業銀行の歩み—東西間の金融交流の一面．レファレンス (309), 43-70 (10, 1976).
749 熊谷一男：第一次大戦前のハンガリー大銀行による産業支配について—オーストリア・ハンガリー金融資本分析のための準備作業 (1-2)．経営論集（明大） 23 (3), 31-86; 23 (4), 55-88 (2-3, 1976).
750 シェイン (Шеин, H.)：コメコン諸国の集団通貨とこれを改善する方法—続・国際論争 社会主義経済統合をめぐって，名島修三訳．世界経済評論 20 (6), 62-70 (6, 1976).
751 ソ連の取引税制度 (1-2)，長谷川信彦訳．調査月報（大蔵省） 65 (2), 55-69; 65 (3), 98-104 (2-3, 1976).
752 玉木令仁：コメコンの通貨・金融問題．社会科学討究 (62), 55-86 (7, 1976).
753 塚本隆敏：ソ連邦における信用について．中京商学論叢 22 (2), 69-88 (11, 1975).

2.8 社会，社会学

754 平野 裕：赤きソ連の大地—特派員の目．東京 毎日新聞社 1976. 286.
755 家族—政策と法 5，社会主義国・新興国，福島正夫編．東京 東京大学出版会 1976. 376.
756 ロシアのコスチューム 4-5，ルイーンシン編，コズリーンスキイ絵，ベールマン；クルバトーワ文，芹川嘉久子訳．東京 丸ノ内出版 1976, 2冊.
757 世界の女性史 11；ロシア 1—大地に生きる女たち（中村喜和〔等〕共著，米川哲夫編）．東京 評論社 1976. 286.
758 世界の女性史 12；ロシア 2—東欧—未来を築く女たち（和田あき子〔等〕共著，米川哲夫編）．東京 評論社 1976. 286.
759 高橋 正；高橋その：ソビエト・ライフ—夫婦で見たソ連．東京 サイマル出版会 1976. 257.

760 阿部重雄：エカテリーナ2世．→〔757〕 世界の女性史 11.
761 阿部修一：ソ連における技術発展と労働の諸問題．立正経営論集 (12/13), 63-101 (1, 1976).
762 千野ズデンカ：チェコの女たち，千野栄一訳．→〔758〕 世界の女性史 12.
763 二神淑子：ソ連における家族構成員の身分権利．→〔401〕 家族—政策と法 5.
764 石川晃弘：チェコスロヴァキア通信 (3-4)．窓 (16), 29-34 (4-6, 1976).
765 金本源之助：ロシアのフォクロアについて．社会科学討究 22 (1), 39-64 (7, 1976).
766 木村 浩：4つのロマンの女性たち．→〔757〕 世界の女性史 11.
767 小堀 巌：モスクワ郊外の会話．現代思想 4 (13), 20-22 (12, 1976).
768 工藤幸雄：実感的ポーランド論—ある「社会主義国家」の住みごこち．諸君 8 (4), 200-212 (4, 1976).
769 栗原成郎：ユーゴスラヴィアの哀しき女たち．→〔758〕 世界の女性史 12.
770 黒川 憲：ソビエトの性の諸問題．青少年問題 23 (3), 38-42 (3, 1976).
771 黒川 憲：ユーゴスラビアの青年同盟 (1)．青少年問題 23 (12), 33-37 (12, 1976).
772 森安達也：イコン・信仰・女性．→〔757〕 世界の女性史 11.
773 中村喜和：中世ロシアの女性．→〔757〕 世界の女性史 11.

774　直野　敦：ルーマニアの女性たち．→〔758〕 世界の女性史　12.

775　ロシア・ソ連の女たち（座談）：米川哲夫；木村　浩；安井侑子；中村喜和；阿部重雄；和田あき子．→〔757〕 世界の女性史　11.

776　シュシニッチ，ジュロ：生活における観念の役割，石川康子訳．現代と思想 (26), 151-161 (12, 1976).

777　東欧諸国の歴史と女性（座談）：米川哲夫；米川和夫；千野栄一；羽仁協子；直野　敦；小船井文司；栗原成郎；阪東　宏．→〔758〕 世界の女性史　12.

778　和田あき子：ナロードニキ女性革命家．→〔757〕 世界の女性史　11.

779　和田あき子：ロシア革命に生きた女たち．→〔758〕 世界の女性史　12.

780　安井侑子：未来を築く女たち．→〔758〕 世界の女性史　12.

781　米川和夫：ある母親の記録．→〔758〕 世界の女性史　12.

782　米川哲夫：農家の女たち．→〔757〕 世界の女性史　11.

783　吉原直樹：ソ連における都市研究の動向—社会学を中心に．哲学（三田哲学会）(64), 101-120 (1, 1976).

R-784　藤家壮一：Gnevra Gerhart 著「ロシア人の世界—その生活と言葉」．えうゐ (3), 150-151 (6, 1976).

3. そ　の　他

785　レオンチェワ（Леонтьева, Л. П.）：長寿の話—ソビエトの長寿村から，小田川研二訳（新装版）東京　潮文社　1976. 176.

786　スミルノフ（Смирнов, Г.）：メンデレーエフ伝—元素周期表はいかにして生まれたか，木下高一郎訳（ブルーバックス）．東京　講談社　1976. 284.

787　ソ連・東欧総覧　1976. 東京　読売新聞社　1976. 693, 170.

788　秋月孝子：わが図書館を語る (17)—北海道大学法学部附属スラブ研究施設．窓 (17), 48-53 (6, 1976).

789　アクサーコフ（Аксаков, С. Т.）：ヤーズィとリーニ—「釣魚雑筆」より，貝沼一郎訳．えうゐ (3), 156-160 (6, 1976).

790　馬場重徳：ローマンス，ゲルマン，スラブ，フィノ・ウゴル，バルト，ルーン諸文字と飜字或は転写．図書館短期大学紀要 (10), 47-58 (1, 1976).

791　阪東敦子：私の感想—ロシア史研究会1975年総会雑感．ロシア史研究 (25), 49-53 (6, 1976).

792　洞　富雄：洞富雄先生著作目録．史観 (95), 98-117 (3, 1976).

793　金本源之助：小川利治先生を送る．ヨーロッパ文学研究 (24), 164-168 (12, 1976).

794　中見立夫：国際モンゴル学者大会あれこれ．窓 (19), 23-28 (12, 1976).

795　小原　敬：日露植物交流覚書 (1)．窓 (19), 10-14 (12, 1976).

796　小川政邦：バーバ・ヤガーの起り，カーメンナヤ・バーバ新発見，マンモス六重奏団，スカンジナビヤとバイカルの古代交流．窓 (16), 44-49 (4, 1976).

797　小川政邦：イーゴリ軍記，青銅の騎士，バスク＝グルジア？．窓 (18), 32-38 (9, 1976).

798　小川政邦：ジアナ号と日本の植物標本，バッタ・ブーツ，たばこがいやになるパイプ．窓 (17), 42-47 (6, 1976).

799　小川政邦：π・地図・マヤ．窓 (19), 38-44 (12, 1976).

800　ロシア文学・思想文献一覧—1974年1-12月；1975年1-6月；1975年7-12月．ロシア手帖 (8), 1-20；(9), 1-8 (3；7, 1976).

801　佐々木照央：ロシアにおける文献学の歴史—ナロードニキの文献学者 H. A. ルバーキンの場合．経済資料研究 (11), 25-40 (7, 1976).

802　佐藤清郎：無名の架橋者たち—日露文化をつなぐ者たち．窓 (18), 6-9 (9, 1976).

803　庄野　新：レファレンスブック—基本資料集．→〔49〕 ソビエト史研究入門．
804　土谷直人：木村彰一教授還暦記念祝賀会．比較文学研究 (30), 183-187 (9, 1976).
805　鶴見俊輔；高畠通敏；長田　弘：「日本人のロシア体験」の読み方—日本の中の世界 (3)．潮 (210), 322-335 (11, 1976).
806　山村房次：除村先生を想う．ロシヤ語ロシヤ文学研究 (8), 121-123 (12, 1976).
807　保田孝一：モスクワ・レニングラード・ヘルシンキ留学記．窓 (17), 32-39 (6, 1976).
808　安平哲二：ソ連の科学技術政策．→〔602〕 現代ソ連の経済と産業．
R-809　馬場政孝：科学技術革命のマルクス主義的分析—ソ連・チェコ科学アカデミー編「人間—科学—技術」．唯物論 (6), 256-258 (5, 1976).

（本目録は昭和52年度文部省科学研究費による成果の一部である）